

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 山梨県 山梨市

自治体名：山梨県山梨市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0553-22-1111

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	32,745 km <sup>2</sup>
人口	33,200 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	764 人
部活動数	50 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	山梨市中学校運動部活動連絡協議会の設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	市の推進計画及びガイドラインなどは検討中

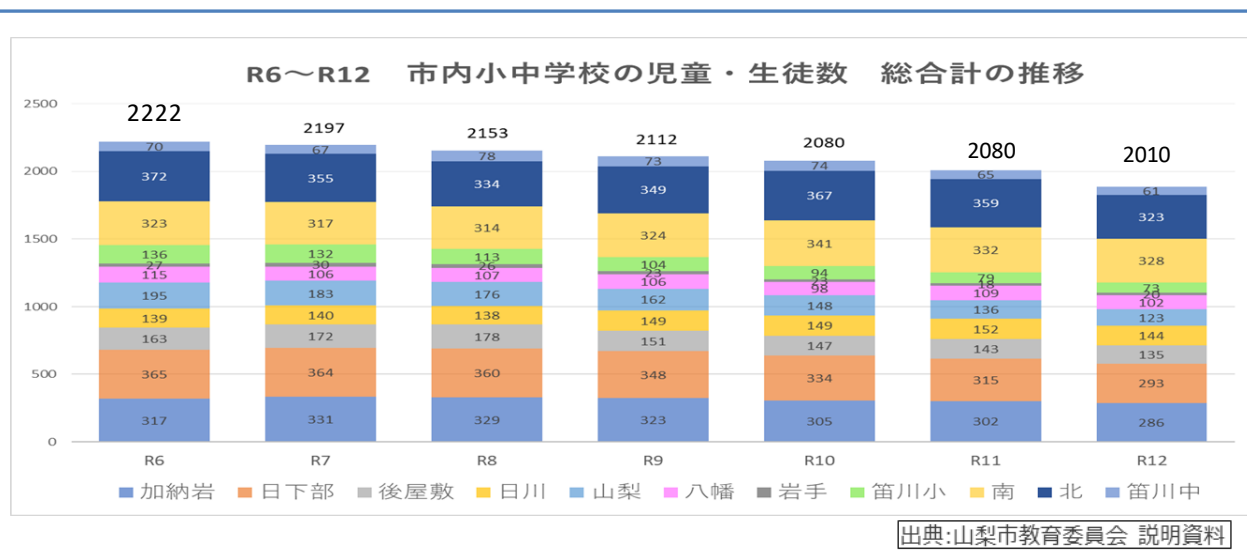
## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の位置する東山梨地区においては、生徒の全員が何らかの部活動に所属し活動するなど、かつてより部活動の盛んな地域である。

現在、市内には山梨南中学校、山梨北中学校、笛川中学校の中学校3校と小学校8校がある。しかしながら人口減少による児童生徒数の減少傾向が続いており、10年後には現在の生徒数の四分之三となる見通しである。

そのため、山間部の小規模の中学校において

は限られた種目の部活動しか設置することができず、生徒の選択の幅が大きく狭められている現状がある。比較的規模の大きい2校についても生徒数の減少により、チーム競技である野球などでは他校との合同チームでの活動を余儀なくされている。特定の競技を続けたいと希望する生徒が市外に活動の場を求めたり、進路選択にも影響を及ぼしたりするなどの状況が出てきており、この機に手立てを講じていく必要が高まっている。



# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

（生涯学習課・学校教育課）

- ・生涯学習課が計画、運営体制の構築、指導者の選定等を行った。
- ・学校教育課にコーディネーターを配置し、学校との協議及び、生涯学習課で選定した指導者と学校長及び部活動指導顧問との連絡調整を行った。

## 年間の事業スケジュール

令和6年5月	令和7年度活動開始
令和6年7月	第1回協議会(代表者会)
令和6年8月	第2回協議会(代表者会)
令和6年9月	部活動顧問専門部会での周知
令和6年10月	部活動顧問意向調査実施
令和6年11月	先進校県外視察
令和6年12月	令和7年度入学生徒説明会
令和7年1月	令和7年度入学生徒説明会
令和7年2月	第3回協議会(代表者会)

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	5クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	12人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
サッカー	東山FC	サッカー	月4回	土曜日午前	1年 4 2年 15 3年 6	4月～3月	山梨南中	3人	3人	1000円/月	中体連：部活動 その他：地域クラブ
男子テニス	地域指導者	軟式テニス	月4回	土曜日午前	1年 8 2年 3 3年 5	4月～3月	山梨南中	1人	1人	無し	中体連：部活動 その他：地域クラブ
女子テニス	加納岩ジュニア	軟式テニス	月4回	土曜日午前	1年 4 2年 6 3年 14	4月～3月	軽スポーツ広場	1人	2人	無し	中体連：部活動 その他：地域クラブ
男子卓球	卓友会	卓球	月4回	土曜日午前	1年 7 2年 6 3年 7	4月～3月	山梨南中	2人	3人	無し	中体連：部活動 その他：地域クラブ
剣道	剣友会	剣道	月4回	土曜日午前	1年 6 2年 7 3年 8	4月～3月	山梨南中	2人	3人	無し	中体連：部活動 その他：地域クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

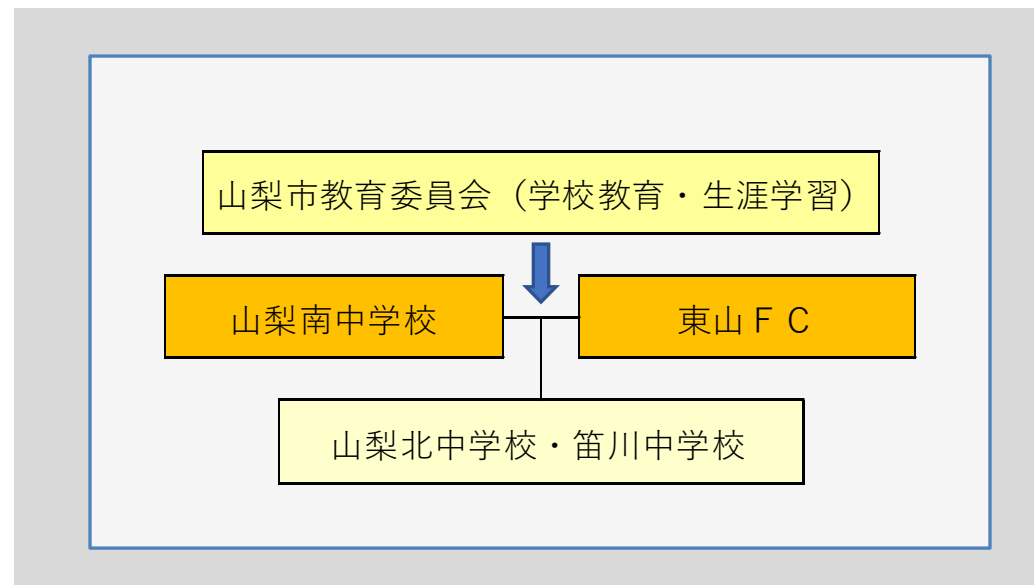
- 【サッカー】 開始時は山梨南中学校のサッカー部の生徒だけであったが、練習体験等も受け入れる中で、広く参加者を募ってる。
- 【卓球】 通常は土曜日の午前中の練習となっているが、一般が参加している夜間の練習機会を紹介し、希望する生徒が参加している。

## 主な取組例

### ● 東山 F C クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	東山 F C スポーツクラブ
期間と日数	サッカー：4月13日～3月8日 月4回程度
指導者の主な属性	教職員の兼職兼業 地域指導者 等
活動場所	山梨南中学校グラウンド 等
主な移動手段	自転車又は保護者の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険(市負担) 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ● 運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者  
役割：全体運営、練習計画立案、学校や市との連絡調整等を行う
- 主任指導者 1名  
役割：練習メニュー作成、技術指導等を中心に行う
- 運営補助者 1名  
役割：安全確保、会場調整、保護者連携、連絡調整などを行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項（ア）

既存の部活動の種目にとらわれずに、多様な種目や内容をターゲットにすることで、様々な専門性を持った地域の方が指導者としてかかわりやすい仕組みの構築を目指した。

##### 取組の成果（ア）

体育的活動の受け皿作りを重点的に進めつつも、広いジャンルの活動を休日の生徒の受け皿とし、地域クラブ活動のジャンルに入れていくことにより、地域の力を広く結集し、多様性に対応できる組織のイメージができてきた。

先進地視察などにより情報収集を行う中で、本市の状況に近い実践例を参考にすることができた。

これらの体制の整備に当たっては3中学校の校長と事務局という少人数の中で、継続して協議を進めイメージを共有していったことが大変効果的であった。

##### 今後の課題と対応方針

現在は実証事業を受けての地域クラブ活動への展開を目指した取組であるが、その環境下においても多くの種目において具体的な体制づくりはこれからである。関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実

##### コーディネーターの実績（ア）

本市の取組の推進において、特に起点となった活動がサッカー(東山FC)である。部活動からの移行の際に、説明資料の作成、保護者説明会の実施、消耗品などに充てる会費の徴収など、担当者と共有する中で進めて行った。この流れを一つのモデルケースとして把握し、他の活動が始動する際の参考になるよう働きかけを行った。平日の部活動後に夜7時迄クラブ活動として活動するという事例も、今後の取組の一つの方向性として周知を図っている。



施主体の整備に当たっては、事務局である教育委員会の細部にわたる見通しが求められている。複数の活動の立上げを目指しているが、まずは一つの活動についてモデルとなる整備を実施していきたい。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

#### 取組事項 (イ)

市内中学校の卒業生やすでに学校や部活動顧問と関係性のある指導者に協力を求めた。コミュニティ・スクールの仕組みを活用するなどし、地域ぐるみで指導者の確保を進めることとした。

#### 取組の成果 (イ)

部活動顧問教師に行ったアンケート調査から、地域クラブ活動において各種目の指導や運営に携わってもらえそうな地域指導者の情報が寄せられた。これらの情報をもとに地域クラブ活動に関わる人材のリストを作成し、次年度の地域クラブ活動への移行に向けての準備にあてることができた。

また、コミュニティー・スクールの仕組みも活用し、指導者の確保について情報提供を依頼した。それによって地域に眠っている指導者の掘り起こしや、卒業生にサポーターとして協力を求める取組に発展するなど、一定の成果が見られた。

#### 今後の課題と対応方針

現在は多くの種目において具体的な体制づくりや指導者の確保はこれからであるが、実証事業を有効に活用する中で道筋をつけていきたいと考える。特に取組の初期の段階においては教員の兼職兼業も含め教員OBなど

#### コーディネーターの実績 (イ)

「場所」「時間」「指導者」をキーワードとし、体育的活動に限らずにジャンルを広げて実施の可能性のある活動をピックアップした。「山梨市地域クラブ活動実施計画(案)」として表にまとめて掲示し、担当課内で広く共有した。

その結果、担当者以外からも人材や活動の情報が入るようになり、取組の進展が見られた。進捗状況の見える化によって推進が図られた事例といえる。

山梨市地域クラブ活動		実施計画(案)		2025. 2. 28		
種目・活動	活動場所	活動日	活動時間	指導者	分類	備考
1 男子卓球	山梨南中	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00	★安会(女子卓球と統合予定)	既存の部活動	【現状】 南中 男子で活動 【今後】 単独クラブとして 男女・南中・北中 統合
2 女子ソフトテニス	緑スポーツ広場・山梨南中	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00	加勢岩ジュニア	既存の部活動	【現状】 南中 男子 南中 女子 で活動 【今後】 ソフトテニスクラブとして 男女・市内中学校統合
3 男子ソフトテニス	山梨南中	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00	地域指導者	既存の部活動	【現状】 南中、北中が参加 【今後】 高校の玉置雄輔
4 剣道	市民体育館研修棟・山梨中	土	9:00~11:00	南吹奏会	既存の部活動	【現状】 南中、北中 参加予定
5 空手	夜泊ら6・山梨南中研修棟	土	9:00~12:00, 13:00~16:00	滝立毅	地域連携	【今後】 南中、北中 参加予定
6 根津記念館ボランティア	根津記念館 他	土	9:00~12:00, 13:00~16:00	根津記念館 職員	ボランティア	【今後】 市内中学 対象 募集
7 万力公園ボランティア	万力公園	土	9:00~12:00, 13:00~16:00	万力公園 動物飼育担当	ボランティア	【今後】 市内中学 対象 募集
8 ヲススポーツ	西の駅やまなし	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00	山梨県オススポーツ連盟(編成)	地域連携	【今後】 市内中学 対象 募集
9 野球	山梨北中グラウンド	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00		既存の部活動	【今後】 甲府市との統合検討 (北中・南中)
10 ソフトボール	山梨南中グラウンド	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00		既存の部活動	【今後】 南中、北中統合
11 ハンドボール	山梨北中グラウンド・体育館	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00		既存の部活動	【今後】 甲府市との統合検討 男女・市内中学校統合
12 バレー	山梨南中体育館	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00		既存の部活動	【今後】 バーチャルクラブとして 男女・南中・北中統合
13 バスケ	山梨北中体育館	土、日	9:00~12:00, 13:00~16:00		既存の部活動	【今後】 バスケットクラブとして

出典:山梨市教育委員会 取組資料

部活動に理解の深い人材も指導者集団に参加していただくことが円滑な運営には効果的と考える。その人材を核として指導者の質の保証と量の確保を進めていきたい。地域の指導者を増やすことで目的に迫りたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ● 取組項目名      **ウ：関係団体・分野との連携強化**    /    **エ：面的・広域的な取組**

##### 取組事項（ウ）

体育系の活動から試行的に取組を始めたが、現在ある部活動の種目にとらわれず、文化的活動の団体やボランティア受け入れ組織なども受け皿として連携を探った。

##### 取組の成果（ウ）

生涯学習課で行う体育団体や関係者との会議の中で、部活動の地域展開について情報提供を行い、周知を図るとともに、協力を呼びかけ連携の強化を図ってきた。

また、まだ準備段階ではあるが、市内に立地する根津記念館や動物園、図書館などでのボランティアを主体とした地域クラブ活動立上げの構想や、書道などの団体との連携ができつつある。

これらの活動は特に技能を持ち合わせていなくても、また体力的に自信が無くても気軽に参加できることがメリットの活動であり、スポーツとは異なる魅力を提供できることが期待される。

##### 今後の課題と対応方針

令和8年度から休日の部活動を行わない代わりに地域の受け皿を設けていく方向で、検討を進めている。現在部活動として活動している競技種目の休日の実施のためには関係団体・分野との連携が不可欠である。今後

##### 取組事項（エ）

モデル校として試行的実施を依頼した山梨南中学校において、令和5年から地域連携として取り組みを開始した。校内での活動の定着と、成果の把握をもとに、市内3校への拡大を目指した。

##### 取組の成果（エ）

令和6年度はサッカー等で他校にも波及を図った。

サッカーは平日の部活動の終了時間からクラブ活動として活動を進めてきた。当初は会場である山梨南中の生徒のみで活動が始まったが、休日の活動で市の中心に位置している市民グランドも併用することにより、近隣の中学生も参加しやす状況が生まれ、活動の広がりにつながっている。

また、ハンドボールやサッカー等の競技において、市外の取組の情報や市をまたいで合同での活動を模索する動きが出始めた。市内の運営組織の立上げを最優先にしつつも、将来的な連携についての糸口ができつつある。

協力を得やすい団体、経費のかからない活動組織との連携を模索する一方、現在中学校で設置されており、学校や保護者にも根強いニーズがある部活動の種目を地域クラブ活動として位置づけていく工夫が必要と考える。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項（オ）

地域指導者に学校で行っている部活動の意義を理解してもらうなど連携を強化した上で計画的活動を行い成果を上げた。

##### 取組の成果（オ）

競技経験のない部活動顧問と卓越した技術を有する指導者が信頼関係の下で連携し、生徒の活動を支えたことにより、生徒の活動意欲や自信が高まり、技術面だけでなく精神面においても大きな変容が見られた。

そのため、学校の管理職、部活動顧問、地域指導者も取組の意義や成果について改めて理解を深めることとなり、他の競技種目などへの波及に向けてもよい事例となった。

##### 今後の課題と対応方針

地域クラブ活動が持続可能な仕組みとして定着していくためには、指導できる技術力と合わせて様々な生徒に寄り添える指導力、部活動の顧問教師との信頼関係の構築が欠かせない。指導者の確保が急務であるが、組織の立上げの段階では、教職員のOBの協力や兼職兼業での活動への参加などを期待したい。あわせて、研修の実施や、実際の部活動指導の現状見学、顧問との連携機会の確保等により、さらに内容の充実を図りたい。

#### 活動の詳細（男子卓球クラブ）

参加人数	20人	指導者数	3人
属性	地域スポーツクラブである卓友会による指導		
具体的な内容	活動時間：月に4回 土曜日午前の3時間 等 活動場所：山梨南中学校卓球練習場 他 ○初心者として練習を始めた生徒も多いが、基礎的な練習方法や技術を土曜日の地域クラブ活動で学び、それを平日は部活動顧問が活動の中に反映させ充実を図るなど、好循環を生み出したことにより内容の充実を図った。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導者の説明がわかりやすく上達していることが実感できた。</li> <li>● 練習が楽しくなり、もっと練習したいと思うようになった。</li> <li>● コーチのアドバイスが的確で試合でも勝てるようになった。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期間で精神面と技術面での成果が表れ、県代表になったのは驚いた。</li> <li>● 生徒たちにとって大きな自信になり地域クラブ活動の持つ可能性を感じた。</li> <li>● 指導や対外試合のたびに生徒の向上の様子がわかり、指導者としても大いに刺激になっている。</li> </ul>		
運営経費	現在は実証事業の経費を謝金にあてている。（1回の報酬：1団体10,000円。月の上限40,000円）土曜日の活動のほかに一般が実施している平日夜の活動にも生徒が参加するなど、活動の広がりが見えていることから、参加費などについて検討中である。		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名      カ：参加費用負担の支援等 / キ：学校施設の活用等

##### 取組事項（カ）

先進地の運営方法や市内でも先行実施している地域クラブ（東山FCサッカークラブ）の取組をもとにして、参加費用負担の支援等について検討する。

##### 取組の成果（カ）

地域クラブ活動を持続させるための参加費のあり方について情報を得ることができた。

東山FCサッカークラブの取組では実証事業の中で指導者の謝金を賄いつつ、クラブの実情に応じて必要最低限の参加費を独自に徴収する形をとっている。

保護者の理解も得る中で進めた流れは今後の受益者負担を想定した場合の実績の蓄積となった。

また、新たな視点として市内にあるボランティア活動の受け入れ可能団体と連携し、参加費用が無くとも興味のある活動に参加できるという受け皿について可能性を探ることができた。

##### 今後の課題と対応方針

活動を自走させるためには財源の確保等運営資金についての検討が不十分である。困窮家庭への支援等も含め、先進地域の組織運営の状況などを参考にしながら持続可能な仕組みの構築を目指したい。また、市の

##### 取組事項（キ）

「①活動場所 ②活動時間 ③指導者」をセットとして検討し生徒の土日の受け皿として実施可能な条件がそろったものから順次実施していく方向性を示し、会場の確保を進めた。

##### 取組の成果（キ）

部活動顧問の教師から活動に適した会場や運営について競技ごとの意見を吸い上げ、活動計画づくりに反映させた。それをもとに学校長との打ち合わせを重ねる中で、学校の体育館やグラウンドについて効果的に利用する検討がなされた。

市民体育館やスポーツ広場は一般の利用団体に広く活用されている実績があるため、学校施設の利用は持続可能な運営に資するものとする。



施設であるスポーツ広場や市民体育館は日常の市民の活動やスポーツ少年団の活動場所として、また、大会の開催などで利用には限界があることから、今後も学校施設の利用を重点に置いて検討を進めたい。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和5年度からの2年間の実証事業を進める中で、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方について検討を深めることができた。

「子どもたちのために」という視点のもと、市として学校の部活動顧問や生徒・保護者に、「部活動は平日のみの活動」「休日の部活動はなくなる」と明確にビジョンを示し、令和7年度の地域展開試行実施を経て令和8年度からの本格実施へと続く道筋について、理解を図ることができた。

モデルケースとして実施した地域クラブ活動では生徒の技術力や意欲の向上が見られ、部活動の地域展開に向けて、取組が持つ可能性も感じられたことが、生徒や指導者、学校関係者から声として寄せられ一つの成果になった。

しかしながら地域クラブ化が進む中で増加する事務負担への対応や運営費用の確保、指導者の質と量の確保など課題は多く、今後検討し整備していく必要がある。

#### ●成果の評価

「教員の魅力ある働き方」や「生涯学習への第一歩」としての位置づけについて検討し、方向性を定める契機となった。

「関係団体・分野との連携強化」「学校の施設の活用」については徐々に理解も得られるようになり前進が見られた。特に、発想を変え、スポーツ関係団体に限らず受け皿となる団体を広く想定したことにより、協力を求められる団体が増えたことは、成果であった。

「関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備」と「指導者の質の保証や量の確保」「参加費用負担の支援」については、引き続き検討を進めていく必要がある。より多くの地域クラブ活動の立上げを目指すところではあるが、まず先行実施している活動の中で、モデルとなる整備の流れを作り、そこを起点として拡大を図る必要がある。

#### ●今後に向けて

学校教育の一環から生涯学習の一環へと展開していくためには、「地域ぐるみで取り組むもの」という意識の高揚がさらに必要である。指導者の確保や財源の確保など持続可能な体制づくりにはさらなる工夫が必要となる。先進地の成功事例なども参考にしつつ、本市の状況に合った、本市ならではの特色のある活動として根付かせていきたい。

また、競技によっては他市との連携の動きも出始めたことから「面的・広域的な取組」の一環として 検討を進めていきたい。

## 広報資料

モデル校での試行から他の2校や他の種目へと波及を図るために、「地域移行」から「地域展開」へと表現が変わったタイミングで市の方針を明示した資料を作成し周知を図った。10月には教職員の兼職兼業の意向を

する意味も含め部活動の各種目顧問から地域クラブ活動として協議を行っていく際の情報をいただいた。また、3中学校で12月以降に行われた新入学生徒とその保護者対象の説明会も実施し、今後の見通しについて周知を図った。

### 把握

#### 山梨市中学校部活動の地域移行・地域展開について

山梨市教育委員会

#### 1. 国の動向

少子化により各学校の部活動の数が減少している状況が加速しており、生徒が希望する活動がしにくい環境になっています。このよう社会情勢の変化を踏まえ、国(スポーツ庁・文化庁)では、新たなスポーツ・芸術文化環境の構築に向けた部活動改革を進めています。国の方針として、休日の部活動の地域移行・地域展開を、全国の中学校で令和5年度より段階的に進め、令和8年度からは本格的実施となることを目指しています。(学校を含めた地域ぐるみの取り組みを強調するため「地域移行」から「地域展開」への改称が検討されています。)

#### 2. 本市の取組

本市においては、試行的に山梨南中学校において、一部の運動部活動について地域移行・地域展開の取組を進めてまいりました。その中で、部活動の意義と目的は引き続き重要なものであるとの認識を踏まえつつ、学校と地域、競技団体等との協働により部活動改革を行い、「地域ぐるみで子どもを育てる」環境づくりを重視していくこととなりました。

そこで、まず平日は部活動としてこれまで通り教員が行い、週末は地域の専門家が「地域クラブ活動」として行うという活動体制を構築し、持続可能な姿を目指していくことといたしました。その中で、なるべく生徒の多様なニーズに沿うことができるように、生徒が選択できる活動の数は現状維持を目指していきます。それによって、平日は人数が少なく充実した活動ができない場合でも、週末は自分が選んだ「地域クラブ活動」に参加し、地域の専門家の方々の指導のもと、活動することが期待されます。あわせて、複数校の生徒たちが一緒に練習する中で、競技力の向上のみならず、他校の生徒と切磋琢磨し友情を育んだり、社会性を育てたりすることも目指していきます。



### 【保護者説明会用チラシ】

作成：山梨市教育委員会 説明資料

### 部活動の地域展開 学校部活動から休日の地域クラブ活動へ

#### 国の動向

- 少子化により部活動数の減少が加速
- 生徒が希望する活動がしにくい環境に
- 国(スポーツ庁・文化庁)では、新たなスポーツ・芸術文化環境の構築に向けた部活動改革を推進
- 休日の部活動の地域展開を、全国の中学校で令和5年度より段階的に進め、令和8年度からは本格的実施へ

#### 【部活動の地域展開とは】

- 学校の部活動を地域の団体やクラブに移行させる取り組み
- 【ねらい】
- 学校教育と地域社会の連携を深め、子供たちの成長を支える
- 【目的】
- 学校負担の軽減 生涯スポーツの推進

#### 地域クラブ活動のメリット

- 他校の生徒などいろいろな仲間と活動できる
- やってみなかった活動に参加できる
- 地域の指導者の専門的指導が受けられる
- 現在の部活動と違った活動もできる
- 中学3年生の、最後まで活動できる

#### 考えられる課題

- 指導力や技術をもった指導者が確保できるか
- 先進地では参加費が必要となるケースも
- 指導者の報酬や会場の確保、会場への移動は
- 持続可能な運営のために必要な組織は
- 大会への参加や大会の運営に支障はないのか

#### 山梨市の目指す姿

部活動の意義と目的を大切にしつつ、学校と地域、競技団体等との協働により部活動改革を行い、「地域ぐるみで子どもを育てる」環境づくりを重視していく。

#### 山梨市の取組

- 令和5年度より「部活動の地域移行に向けた実証事業」に参加
- ・山梨南中学校をモデルケースとして試行的に開始。
- 令和6年度にスポーツ庁・文化庁で「地域移行」から「地域展開」に名称変更。
- ・現在5つの部活動について活動を実施しているが、教育委員会を含め現場でも戸惑いが生じた。
- ・部活動に熟練した教員や厳しい指導を期待する保護者(生徒)も少なからずおり、共通理解を図ることが難しい。

#### ○市としてのビジョンの明示

- ①令和7年度を試行の年として位置づけ推進する。
- ②令和8年度から学校部活動は平日のみとする。
- ③土日の部活動をしない代わりにスポーツ、文化、ボランティア等に関する団体や活動をその受け皿として整え、持続可能な体制を整える。

#### ○地域クラブ活動への地域展開に向けた準備

- ①学校や保護者への説明会の実施。
- ②生徒の多様なニーズに沿うことができるように、20前後の地域クラブ活動の立上げを目指す
- 「活動場所・指導者・時間」の3つを基本項目として計画の立案。



### 【アンケート結果】

出典：山梨市教育委員会 説明資料

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【ソフトテニス 多球練習による指導】



【ソフトテニス 練習ポイントの説明】



【卓球 ゲーム形式の練習に対する指導】



【卓球 指導者によるマンツーマン指導】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- **ステークホルダー**  
学校長・部活動顧問
- **経過**  
事業の実施にあたって、市内中学校長と協議を重ね、本市としての最適な形についての検討を行った。
- **実施にあたって生じた課題**  
市内3中学校のうちの1校が山間部に位置するため、足並みをそろえた実施に困難が伴う。
- **実施内容、工夫した点等**  
現存するリソースの集中を可能にするため、地域移行に前向きであった1校をモデル校として、地域連携から導入することとした。

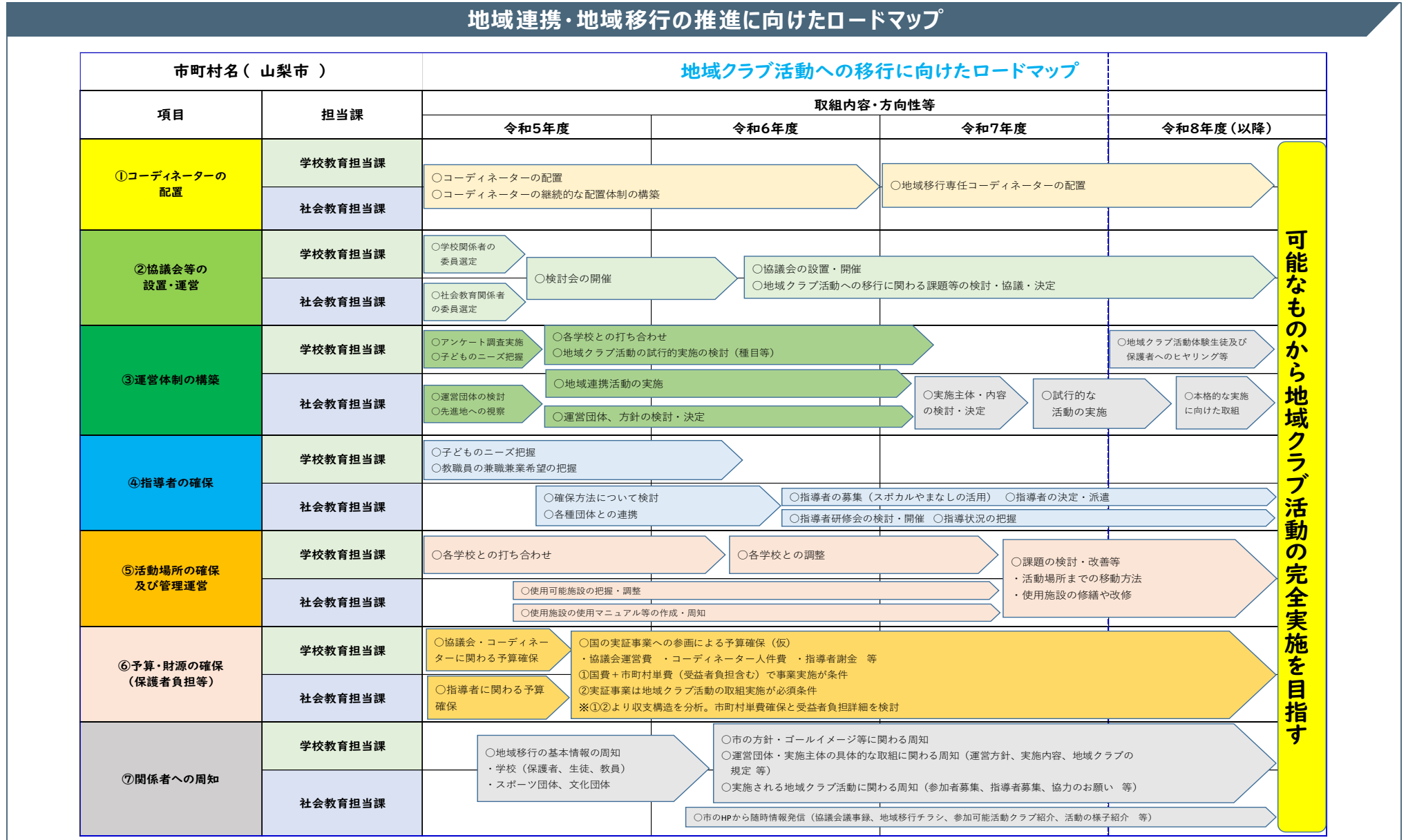
- **ステークホルダー**  
部活動顧問
- **経過**  
部活動顧問に事業の説明を行い理解を求めた。
- **実施にあたって生じた課題**  
部活動は全員参加のもと休日も行ふものという意識が残る、生徒指導上の要素や責任の所在などの点から不安要素が多数出された。
- **実施内容、工夫した点等**  
モデル校での実践活動を具体例として説明する中で、地域移行のメリットについて少しずつ理解が深められた。

- **ステークホルダー**  
生徒・部活動顧問・地域指導者
- **経過**  
モデル校の実践をもとに市内の他校や保護者等に説明を行い、理解を求めた。
- **実施にあたって生じた課題**  
「地域移行」から「地域展開」に向かうなど一部方向性に不安が残っていた。
- **実施内容、工夫した点等**  
令和7年度を移行期間、8年度を本格実施として市の方針を明確にし、スケジュールを示したことにより、目標に向けての意識が高まった。

- **ステークホルダー**  
部活動顧問・地域指導者
- **経過**  
教職員に再度の意向調査を行い、部活動がなくなった時の受け皿の確保に着手した。
- **実施にあたって生じた課題**  
一斉に複数の活動の立上げは困難であり、運動部だけを対象とした発想には限界がある。
- **実施内容、工夫した点等**  
体育系の活動以外でも地域の文化団体やボランティア受け入れ先、高等学校など、受け皿の可能性を広くとらえ検討を始めた。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



可能なものから地域クラブ活動の完全実施を目指す

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 山梨県 韮崎市

自治体名：山梨県韮崎市

担当課名：教育課

電話番号：0551-22-0498

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	143 km <sup>2</sup>
人口	27,723 人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	620人
部活動数	18 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

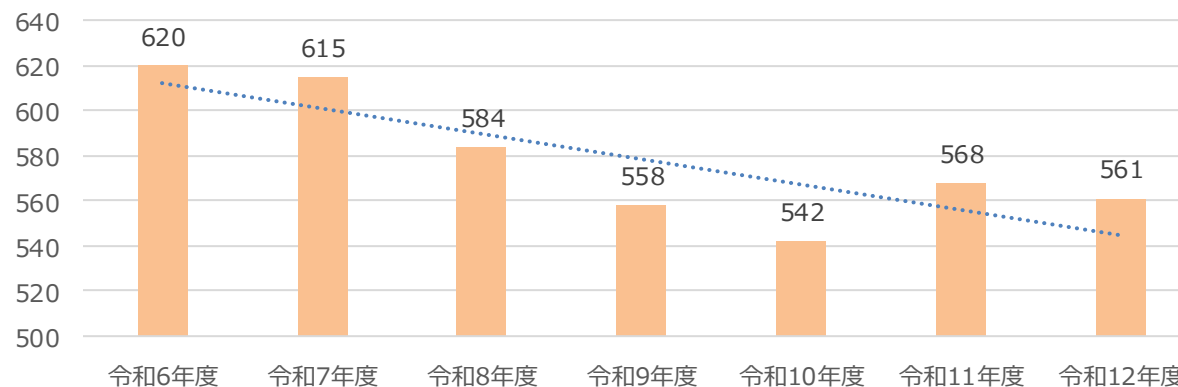
本市においては、2校の公立中学校があり、生徒数620人で18部活動が活動している。生徒数は少子化の影響により5年後には1割程度の減少が見込まれ、今後は2校合同での活動が拡大していくことが見込まれる。

地域移行の状況としては、本年5月に中学校部活動地域移行協議会を設立し、10月にはモデル校の全運動部活動の休日の地域移行を行った。持続可能な運営体制の構築に向け、今後は、民間への委託等を検討することとなるが、地域クラブ活動の受け皿となり得る葦崎スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）については、

現在23種類のスクールやサークル、クラブ活動や各種大会を開催しているが、会員数は平成17年度から年々減少し、現在449名と全盛期の半数以下となっており、現運営体制ではクラブの存続が厳しい状況となっている。

スポーツ少年団も平成16年度には20単位団が活動していたが、現在は11単位団となっており、「サッカーのまちにらさき」を標榜している本市であるが、全盛期9単位団あったサッカースポーツ少年団は現在全て廃止されており、受け皿の確保が課題である。

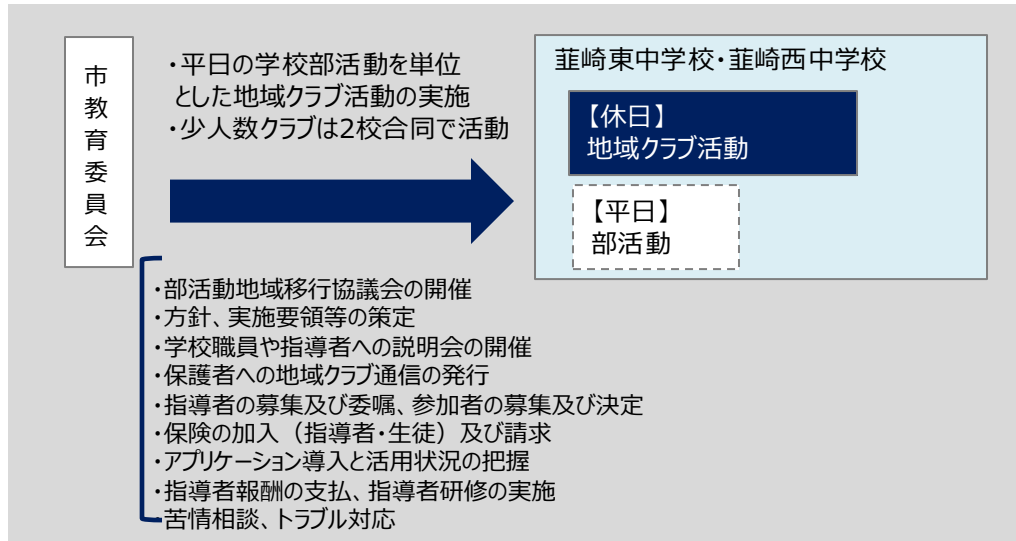
市内公立中学校（2校）生徒数見込み



# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

（学校教育担当）

- ・教員の服務監督機関として兼職兼業の申請・許可を管轄
- ・学校内活動として教員又は部活動指導員が担う学校部活動を管轄

（スポーツ振興担当）

- ・学校外活動として外部指導者や兼職兼業教員などが担う地域クラブ活動を管轄
- ・中学校部活動地域移行協議会事務局（コーディネーター所属）

#### ◎首長部局・なし

## 年間の事業スケジュール

令和6年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動コーディネーター採用</li> <li>・東西中学校校長への推進方針説明</li> </ul>
令和6年5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東中学校部活動顧問ヒアリング</li> <li>・第1回協議会の開催</li> </ul>
令和6年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者募集</li> </ul>
令和6年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回協議会の開催</li> <li>・教職員兼職兼業規定の策定</li> </ul>
令和6年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者説明会、委嘱、参加者募集</li> </ul>
令和6年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東中学校地域移行開始</li> <li>開設部：9クラブ</li> <li>陸上部、サッカー部、野球部、ソフトテニス部男女、バスケットボール部男女、バレーボール部女子、剣道部</li> <li>・部活動アプリ利用開始</li> </ul>
令和6年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回協議会の開催</li> </ul>
令和7年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者、保護者、指導者アンケート実施</li> <li>・第4回協議会の開催</li> </ul>

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9クラブ（9部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	2人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に (新)を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
韮崎市地域クラブ	教育委員会	野球	月4回	9時～12時	1年8名 2年4名	10月～3月	中学校	2人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	サッカー	月4回	9時～12時	1年16名 2年4名	10月～3月	中学校	2人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	陸上	月4回	9時～12時	1年10名 2年17名	10月～3月	中学校	3人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	男子ソフトテニス	月4回	9時～12時	1年5名 2年12名	10月～3月	中学校	2人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	女子ソフトテニス	月4回	9時～12時	1年6名 2年7名	10月～3月	中学校	3人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	女子バレーボール	月4回	9時～12時	1年3名 2年8名	10月～3月	中学校	5人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	男子バスケットボール	月4回	9時～12時	1年12名 2年7名	10月～3月	中学校	1人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	女子バスケットボール	月4回	9時～12時	1年13名 2年10名	10月～3月	中学校	1人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動
韮崎市地域クラブ	教育委員会	剣道	月4回	9時～12時	1年4名 2年6名	10月～3月	中学校	1人	0人（内、兼務0人）	無料 ※R7未まで	中体連：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

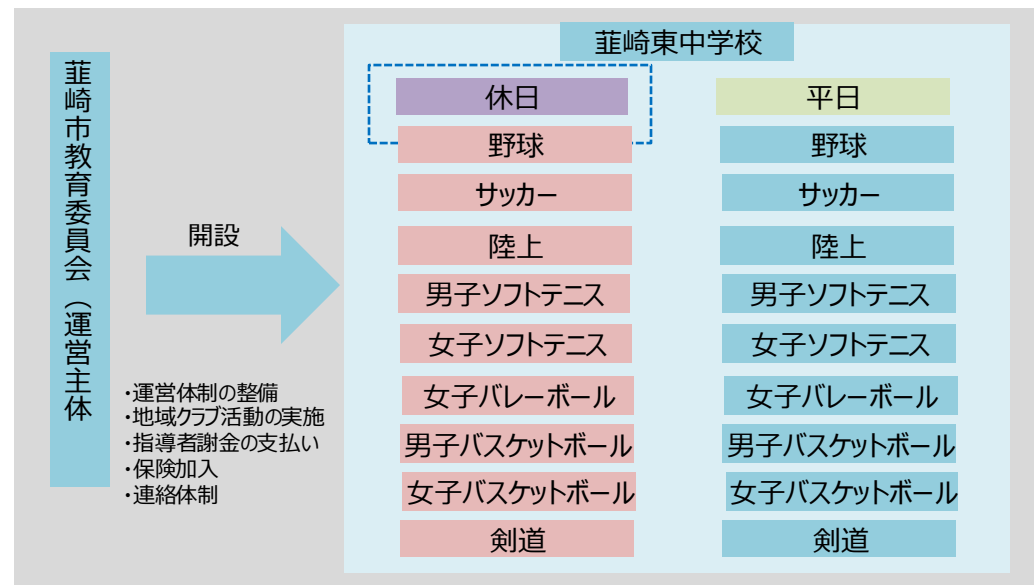
なし

## 主な取組例

### ● 韮崎市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、陸上、ソフトテニス（男女）、バレーボール女子、バスケットボール（男女）、剣道
運営団体名	韮崎市教育委員会
期間と日数	全種目：10月19日～3月末 週休日のいずれか1日
指導者の主な属性	中学校教員、大学生、一般指導者
活動場所	韮崎東中学校
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	全種目：令和7年度末まで無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 教育長・教育課長  
役割：活動全体の責任を担う
- 部活動地域移行コーディネーター  
役割：活動におけるコーディネーターとして市、学校、保護者、指導者との連携を行う
- 教育委員会事務担当者 1名  
役割：運営事務全般を担う（協議会開催、方針・要領等の策定、指導者確保、説明会開催、保険手続、報酬支払、進捗管理、苦情相談、トラブル対応等）
- 指導者 20名  
役割：指導、安全管理を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- ・中学校の退職教員を各学校との連携と部活動の状況把握、移行への調整等を行う部活動コーディネーターとして配置
- ・スポーツ・文化振興担当部署、学校担当部署、地域スポーツ・芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる「中学校部活動地域移行協議会」を設置し、定期的・恒常的な情報共有・連絡調整を行う、緊密に連携できる体制を整備

##### 取組の成果

学校の実情を把握している退職教員をコーディネーターとして配置することで、学校との連絡調整や状況把握が円滑となり、地域移行の推進が加速した。

また、「**「葦崎市新たな地域クラブ活動方針」**」の策定や、「**「市が設置する学校に係る部活動の方針」**」の改訂など、学校（教師）、保護者、生徒のニーズ等を把握しているコーディネーターの意見が参考となった。

また、部活動地域移行の推進母体となる中学校部活動地域移行協議会（以下「協議会」という。）を設置することで、生徒・保護者のニーズの把握、課題の整理や解決策の立案、取組の推進や進捗管理などを円滑に行うことができた。

##### 葦崎市立中学校部活動地域移行協議会

令和6年5月23日設置

市スポーツ協会会長、市スポーツ少年団本部長、PTA会長、校長、運動部顧問、文化部顧問、総合型スポーツクラブマネージャー、武田の里文化振興協会事務局員

##### 地域クラブ活動に関する各種方針

- 新たな地域クラブ活動方針  
(R6.5.23策定)



- 市が設置する学校に係る部活動の方針(R6.5.23改訂)



##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・定期的に学校を訪問し、連絡・依頼・進捗管理・指導助言等を実施
- ・協議会の資料等を作成し、関係団体との連携に努めた。
- ・学校からの要望に基づき、地域展開に係る説明会講師として講演
- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

##### 今後の課題と対応方針

- 地域クラブ活動の定義が学校、保護者等に十分周知されていない。今後、練習試合や市外における練習、公式試合などの取扱いについて明確化し、周知する必要がある。
- 学校、地域、市事務局との連携を強化するため、校内コーディネーターを配置し、業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

- ・県人材バンク（マッチングアプリ）を活用し指導者を確保に努めた
- ・指導者説明会を開催し、指導の留意上や心構えなどを説明
- ・山梨学院大学発「やまなしスポーツ指導者」養成プロジェクト履修者の指導者受入（山梨学院大学生バレーボール女子3名）

##### 人材バンクの登録人数

127名

##### 人材バンクの年齢構成

10代	18名
20代	64名
30代	16名
40代	14名
50代	10名
60代以上	5名

##### 登録者属性

職業	
・会社員	22名
・教員	9名
・公務員	3名
・自営業	15名
・学生	72名
・その他	6名

##### 種目

陸上/サッカー/野球/ソフトテニス/バスケットボール/ダンス/バレーボール/ハンドボール/ホッケー/ラグビー/弓道/空手/硬式テニス/水泳/スキー/体操/卓球/自転車/ドッジボール

##### 資格等

公認スポーツ指導者、教職員、山梨学院大学養成研修履修者など

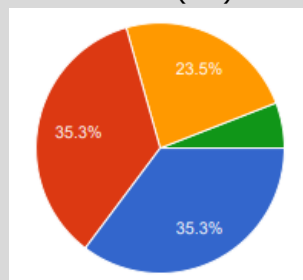
##### 取組の成果

参加した中学生17人を対象としたアンケートの結果、回答者の70.6%が「参加して良かった」との回答であった。また、保護者69人を対象としたアンケート結果においても、回答者の65.2%が「参加して良かった」との回答であったが、地域展開初期段階であり、兼職兼業の許可を得た教職員（顧問教諭）が未だに多くのクラブで指導を行っているため、生徒、保護者いずれも「どちらとも言えない」が、3割程度見られる状況である。

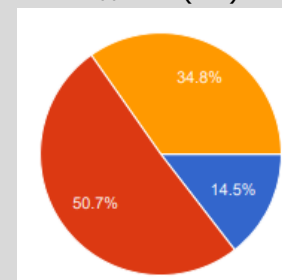
今後は、地域の指導者を積極的に採用し、部活動との変化を実感できるような活動を展開していく必要があるといった課題も発見できた。

休日の地域クラブ活動に参加して（参加させて）どう感じましたか。

生徒(17)



保護者(69)



- とても良かった
- 良かった
- どちらとも言えない
- 良くなかった
- とても良くなかった

出典: 韮崎市教育委員会 韮崎市地域クラブ活動に関するアンケート結果

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

【**葦崎市地域クラブ活動指導者研修**】

- ・対象：全指導者
- ・目的：市の方針、指導に当たっての留意点、任用に当たっての遵守事項を理解してもらう。

工夫した点：学校部活動の教育的役割、意義を継承した指導を行うことを基本とするため、「部活動での指導ガイドライン（平成25年5月文部科学省）」の規定に基づき、指導に当たっての留意点等を確認した。

【**研修内容**】

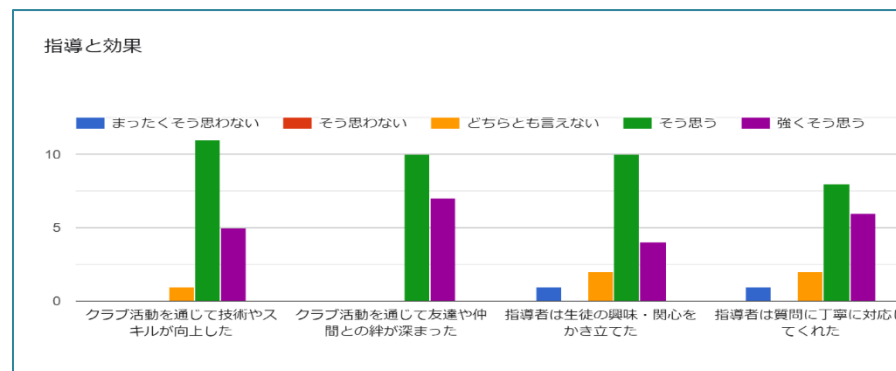
- 科学的裏付け等及び生徒への説明と理解に基づく指導の実施
- 生徒の心理面を考慮した肯定的な指導が主体的に自立して取り組む力を育成
- 生徒の状況の細かい把握、適切なフォローを加えた指導
- 指導者と生徒の信頼関係づくり
- 上級生と下級生、生徒の間の人間関係形成、リーダー育成等の集団づくり
- 事故防止、安全確保に注意した指導
- 肉体的、精神的な負荷や厳しい指導と体罰等の許されない指導との区別
- 科学的な指導内容、方法の積極的な取り入れ
- 運動部活動のマネジメント力その他多様な指導力の習得

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日：9月26日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：15人

##### 受講者の声

参加者アンケート結果抜粋



出典:葦崎市教育委員会 葦崎市地域クラブ活動に関するアンケート結果

保護者の声

- 「見る人が増えると細かく見てもらえている気がする」
- 「本人が楽しそうに参加している」
- 「練習を通じて他校の生徒と交流することができた」

##### 今後の課題と対応方針

○移行初年度ということもあり、急激な変化を避けるため、教職員を多く指導者に採用しているが、今後地域の指導者に指導の主体をシフトしていく際には、研修動画の履修や確認テストなどを通じて、指導者としての水準を高める必要がある。また、学校部活動の教育的役割や意義を継承するため、学校教員だけでなく地域の指導者にも生徒に対する指導上の留意点や緊急時における安全対策などを理解してもらう必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項（イ）

1対1のやり取りを不可とする部活動メッセンジャーアプリを導入し、私的なやり取りに伴うリスクを排除した。また、アプリを使用することで平日、休日の練習内容を共有し、指導の一貫性を確保した。

利用状況(2月末現在)：302名（指導者26名、生徒152名、保護者124名）

##### 取組の成果（イ）

生徒と指導者間において、私的なメッセージのやり取りができない仕様の部活動アプリを導入し、教育委員会に管理者権限を持たせ、監視することでリスクを排除するとともに、スケジュール周知や、生徒の目標管理、全体へのメッセージ機能等を活用し、円滑はクラブ運営に役立っている。

部活動・地域クラブの連絡コミュニケーションを安心安全に支える  
部活アプリ | BUKATSU MANAGER

- ・LINEやSNS連絡による私的なやり取りリスクの排除
- ・効率的なチーム運営を支える機能（連絡・スケジュール・記録・集金）

##### 今後の課題と対応方針

部活アプリの導入によりスケジュール周知やチーム連絡が容易となり、円滑な運営を行えた一方で、指導者に教職員（兼職兼業）の割合が多い状況の中、アプリを使用せず、従来の紙ベースでのチーム連絡を継続している

##### 取組事項（イ）

教職員の兼職兼業を可能とするため、小、中学校処務規程を一部改正し、指導継続を望む教員を地域クラブ活動指導員として確保した。

##### 取組の成果（イ）

令和6年8月に「蕪崎市立小、中学校処務規程」の一部改正を行ったことで兼職兼業の許可により指導を望む教職員の指導者委嘱を可能とした。

12名が兼職兼業の許可により地域の指導者として従事

#### 営利企業等の従事許可申請書 (教育に関する兼職(兼業)許可申請書)

第6号様式(第18条関係)

営利企業等の従事許可申請書  
(教育に関する兼職(兼業)許可申請書)

職名及び氏名	職名	氏名
兼ねる職	名称	
職務内容及び勤務の態様		
その必要性		
従事する期間		
給与又は報酬	<input type="radio"/> 受ける(1時間当たり 円)	<input type="radio"/> 受けない
現職	名称	

クラブもあり、運営主体（教育委員会）が事前に開催日時を把握できないなどの事態が生じている。全クラブのスケジュール周知はアプリの使用を必須とするなど指導を徹底する必要がある。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

#### 取組事項

○学校と連携して進めていくため、公立中学校(2校)を訪問し、教職員を対象に、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

○指導者の派遣について、山梨学院大学と連携。

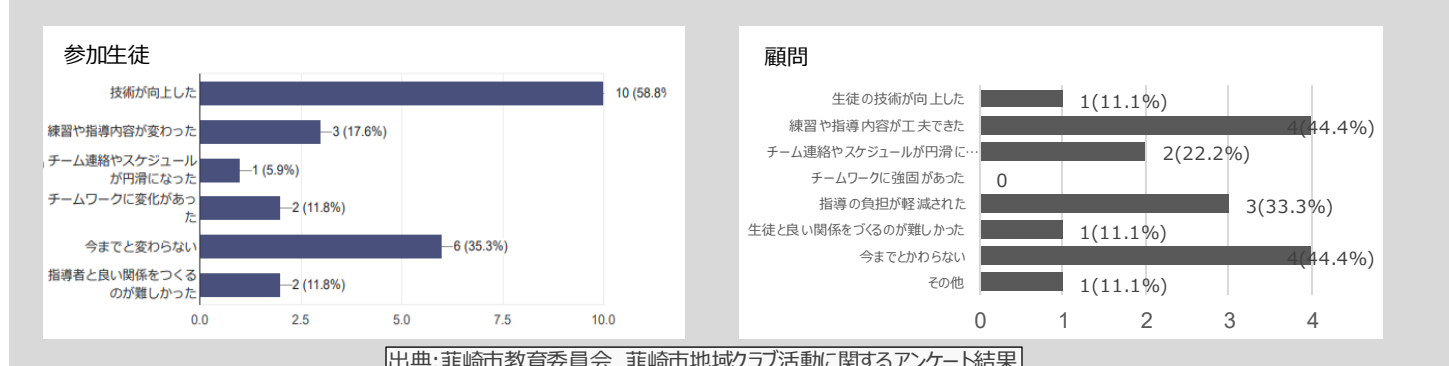
山梨学院大学発「やまなしスポーツ指導者」養成プロジェクト履修指導者3名を採用

#### 取組の成果

参加した中学生17人を対象としたアンケートの結果、回答者の10名が「技術が向上した」との回答であった。

また、平日の運動部活動18名の顧問中、兼職兼業許可により指導を継続している教職員を除いた6名の顧問は、休日の部活動業務から解放され、働き方改革が推進された。

また、9クラブ中5クラブにおいて、地域の指導者を採用しており、兼職兼業教職員から地域の指導者に徐々に主体的指導権が移行するにつれ、今後更なる働き方改革が推進される見込みである。



#### 学校における情報共有



管理職が掲示板を活用し、教職員に活動を周知（練習・公式戦など）

#### 山梨学院大学スポーツ科学部指導者



顧問から地域の指導者への緩やかな移行（ソフトランディング）の実施

#### 今後の課題と対応方針

全クラブへ地域の指導者を1名以上配置し、顧問から地域の指導者へ緩やかに指導の主体を移行させることで、教育的な役割や意義の継承したスポーツクラブ活動が展開されるよう取り組む。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

(参考) 指導者1名の年間報酬額

活動回数：4日/月

活動時間：3時間/回

指導者報酬1,600円/時間

【年額】

1,600円×4日×3時間×12月=  
230,400円

##### 地域クラブに係る経費

■イニシャルコスト なし

##### ■1クラブ当たりのランニングコストと持続的な運営に必要な受益者負担金分析金の試算

項目	10名 (指導1名)	10名 (指導2名)	15名 (指導1名)	15名 (指導2名)	20名 (指導1名)	20名 (指導2名)
会場借料	20,000円	20,000円	20,000円	20,000円	20,000円	20,000円
指導者謝金	230,400円	460,800円	230,400円	460,800円	230,400円	460,800円
消耗品費	10,000円	10,000円	15,000円	15,000円	20,000円	20,000円
参加者保険料	8,500円	8,500円	12,750円	12,750円	17,000円	17,000円
指導者保険料	1,850円	3,700円	1,850円	3,700円	1,850円	3,700円
アプリ使用料	7,700円	7,700円	11,550円	11,550円	15,400円	15,400円
コスト計	278,450円	510,700円	291,550円	523,800円	304,650円	536,900円
受益者負担(年額)	27,845円	51,070円	19,436円	34,920円	15,232円	26,845円
受益者負担(月額)	2,320円	4,255円	1,619円	2,910円	1,269円	2,237円

##### 収支バランス

イニシャルコストは、現状は教育委員会が実施主体となることからHP構築や事務用品等にコストは生じていない。

ランニングコストに対して、受益者負担金を充当するものであるが、本市の民間スポーツクラブ（総合型スポーツクラブサッカー教室）の参加料は1回当たり500円程度となっており、地域クラブ活動は月4回の開催を予定しているため、受益者負担は月額2,000円前後が適当であると考えた場合、10名を下回る活動については、指導者1名体制であっても1人当たりの受益者負担額は月額2,000円を上回り収支マイナスとなる。参加者が10人を下回るクラブは、持続可能な運営は困難になると思われる。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

#### 取組の成果

○運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行い「スポーツ活動費」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担するべきものとする。また、「事務局運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。よって、「スポーツ活動費」を受益者負担の対象に検証を行なっていくこととする。

○受益者負担額の設定においては、「1ヶ月単位」で活動の参加有無に関わらず申込者全員で負担する方法と、「1回参加すること」に参加者のみで負担する方法の両面で検証した結果、「1回参加すること」に負担を求めると、参加率が低調な場合において、受益者負担の額が非常に大きくなるとともに、収益の見込みがつかないことから、運営主体において、持続可能な運営は困難になると思われる。

項目	費用	割合
スポーツ活動費	5,291,740	87.1
諸謝金	4,728,000	77.9
諸謝金	4,608,000	75.9
諸謝金	120,000	2.0
会場使用料	100,000	-
消耗品費	262,000	-
雑役務費	201,740	-
スポーツ活動費活動費（保険料）	278,200	4.6
生徒	222,700	-
指導者	55,500	-
事務局運営費	502,344	8.3
人件費	303,824	-
研修費	165,000	-
通信運搬費	3,520	-
報償費	30,000	-
合計	6,072,284	-

スポーツ活動費全額受益者負担 ⇒  
 謝金全てを受益者負担 ⇒  
 指導者の謝金のみ受益者負担 ⇒  
 算出根拠 ⇒

	月額Ver (申込者全員負担)	1回ごとVer (参加者のみ負担)	公費負担額
⇒	1683円/月	525円/回	502,344円
⇒	1503円/月	469円/回	1,066,084円
⇒	1465円/月	458円/回	1,186,084円
⇒	費用/①/②	費用/③	合計-費用-保険料

⇒自己負担  
 ⇒公費負担

①	活動月数	12箇月
②	申込者数	262名
③	延べ参加者数(8割)	10,061

#### 今後の課題と対応方針

本市のクラブ活動は学校部活動を単位とし、地域クラブ活動へ移行しているが、低廉な受益者負担による持続可能な運営を行っていくには、利用者が10名に満たない少人数のクラブは複数校による合同クラブ活動を実施するなど、指導者の配置数を調整していかなければならない。

また、移行当初段階につき、兼職兼業許可により地域クラブ活動指導

者として従事している教職員の割合が多い現状では、従来の部活動と指導形式が変わらないため、参加者や保護者から受益者負担金の徴収に理解を得られにくいため、今後は、合同クラブ化や地域指導者の配置を加速し、令和8年度から受益者負担金を徴収できるよう、実施体制を整備していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

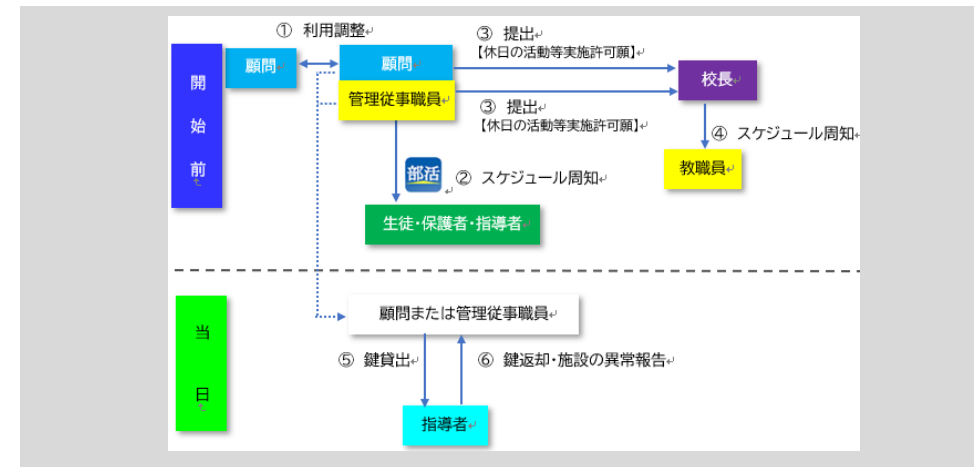
今後徴収を開始する受益者負担金を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○地域クラブ活動のために学校施設を利用する際の利用調整、予約等のルール等を策定した。

##### 取組の成果

モデル中学校を訪問し、理解を高めることで、学校との繋がりを深め、9クラブにおける全81回の活動において、約80%は、学校施設を利用した活動となった。

また、教育委員会が地域クラブ活動の運営団体であることから、学校備品、消耗品等の地域クラブ活動での使用が可能となり、スムーズな移行に繋がった。



出典: 藤崎市教育委員会 藤崎市地域クラブ活動に係る施設利用・活動実施フロー

##### 今後の課題と対応方針

学校部活動の教育的役割や意義を継承するため、平日の部活動顧問にも学校施設の鍵の開錠、施錠等、施設管理に関わりを持たせ、取り組んできたところであるが、今後は学校施設の利用を基本としながらも、学校と

意見交換を行ったうえで地域の指導者が学校施設の鍵の開け閉めを行えるよう施設管理のルールを改善し、教職員の負担軽減を図っていく必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

本実証事業を活用し、4月に地域移行コーディネーターを採用するとともに、5月には学校、保護者、スポーツ・文化芸術団体等で構成される韮崎市立中学校部活動地域移行協議会を設立し、地域展開に向けた推進体制を強化した。

令和6年度については1校を推進モデル校に指定し、教育委員会が実施主体となり、顧問全員の意向確認、兼職兼業規定の整備、実施要領の作成、部活動アプリの導入、指導者募集、参加者募集等を経て、10月にモデル校における全運動部活動（9校）の休日の地域クラブ活動への移行を実施したところである。

また、東西中学校両校への定期的な訪問や、顧問への個別面談、指導者説明会、教職員説明会などを通じて、本市の取り組み方針の共有を図りながら活動を展開してきた。

円滑なクラブ運営やトラブルリスクを排除するため部活アプリを導入するなど、学校部活動の教育的な役割や意義を継続し、ソフトランディングによる地域展開を意識しながら活動の基盤を構築することができた。

#### ●成果の評価

本市では本年度から地域展開の取り組みを開始し、当初は学校からも取り組みに懐疑的な意見が出されていたが、市の方針を策定し、学校へも丁寧な説明を行ったことで、計画どおりに取り組みを推進することができた。

本実証事業の達成目標は、韮崎東中学校（モデル校）において、2月末時点で休日部活動へ従事する指導教員数を0とする（兼職兼業希望職員は除く）ことであったが、10月にモデル校の全運動部活動の休日の地域展開を実施したことにより目標は達成することができた。

地域の指導者の採用と同時に、指導を望む教職員ため、兼職兼業規定を整備にしたことにより、教職員の「指導」と「休暇」の選択が可能となり、教職員の働き方改革が推進された。

#### ●今後に向けて

地域の指導者に比べ、兼職兼業の許可による地域クラブ活動の指導を行う教職員の割合が多い状況であり、従来の「部活動」と指導者が変わらないクラブも多く、未だに「地域クラブ活動」が開始されていることを認識していない生徒、保護者もいる。

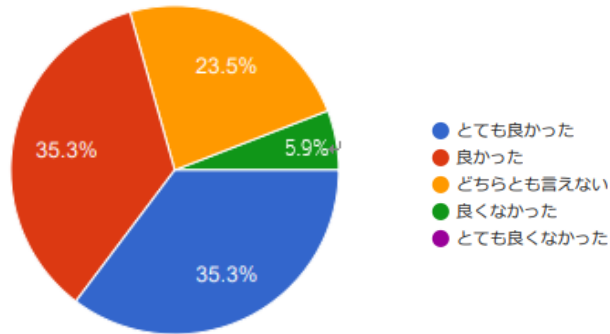
本市では、持続的な運営を目指し、令和8年度から受益者負担金を徴収していく方針であるが、教職員が多く残る現体制のままでは、部活動からの変化も少ないことから、受益者負担金の徴収に理解を得られにくい状況となっている。

今後は、合同クラブ化や地域の指導者の配置を加速し、学校から活動を切り離していく必要がある。

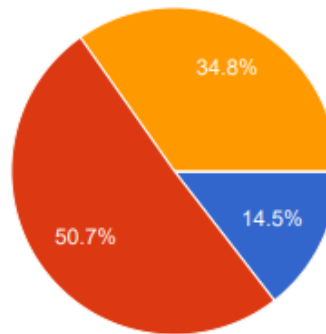
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

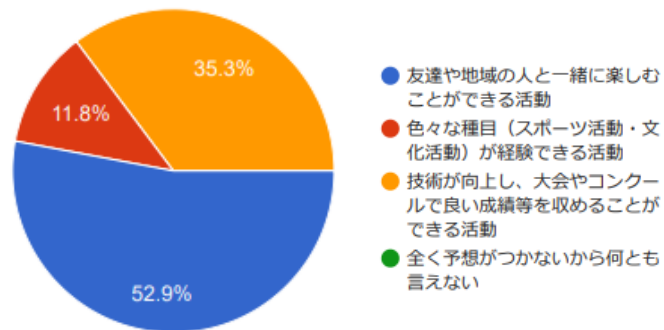
Q.参加者：休日のクラブ活動に参加してどう感じましたか？



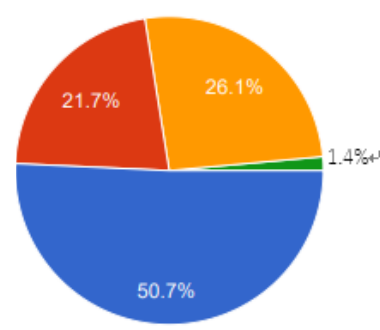
Q保護者：お子さんが休日のクラブ活動に参加してどう感じましたか？



Q.参加者：今後地域クラブ活動がどのような活動になると良いと思いますか？



Q.保護者：今後、地域クラブ活動がどのような活動になると良いと思いますか？



出典: 藤崎市教育委員会 藤崎市地域クラブ活動に関するアンケート結果

### ●アンケート意見

#### 保護者

- ・見る人が増えると細かく見てもらえている気がする
- ・本人が楽しそうに参加している
- ・練習を通じて他校の生徒と交流することができた

#### 保護者

スケジュールをもっと早く入力して欲しい。  
地域移行の話だけが進んでいて実際保護者や子ども達はそこまでついていけないように感じる。

#### 指導者

この事業の趣旨を考えると学校から切り離すべきだと思います。  
その上で教員としてではなく地域の人間として参加する教員がいても良いと思います。

#### 指導者

大会への参加を認める。地域の施設を無料で利用。参加する生徒から消耗品などの会費をしっかりと取り、受益者負担で運営していく。指導者の人材を確保し、負担にならないようにしていく。



### 参考資料（活動写真）



【学校管理職による地域クラブ活動日程の職員への周知】



【バスケットボール女子練習風景】



【地域クラブ活動指導者説明会（東中学校）】



【剣道部練習風景】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ少年団、文化振興協会、総合型スポーツクラブ、市教委、コーディネーター

#### 経過

令和6年度より学校、スポーツ団体、保護者、文化振興団体、市教育委員会等で組織する蕪崎市立部活動地域移行協議会を設置し、蕪崎市教育員会を運営団体とした新たな地域クラブ体制を令和7年までに構築する推進計画及び地域クラブの活動指針を策定した。

また、協議会において、クラブ活動の実施要領や参加者規約、施設利用ルールを定めた。

#### 実施内容

市内1中学校の9部活動（陸上、野球、サッカー、ソフトテニス男女、バスケットボール男女、バレーボール女子、剣道）において、10月から休日の地域クラブ活動への移行を実施した。この内、バスケットボール女子、バレーボール女子は、山梨学院大学との公学連携により、学生指導者を配置し、活動を展開している。

#### 実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、活動場所の確保やスケジュール周知、鍵の貸出に対する顧問の負担が大きいたことが指摘された。

また、指導者の毎月の実績報告は、現在、顧問や学校管理職を経由し、市教委に提出する流れとなっているが、実際の事務は、学校事務職が書類のとりまとめ等を行っており、新たな事務負担が生じている。

2月開催の第4回協議会において課題を共有し、今後は鍵の管理を地域の指導者にシフトしていくことや、ICTを活用した実績報告の提出について、協議を進めている。また、種目によっては従来の部活動顧問がそのまま兼職兼業の許可を経て指導に当たっているクラブもあり、「地域クラブ活動」が行われていないと感じている保護者がいることがアンケートからも確認されている。

#### 今後の展開

令和7年10月からは、市内すべての中学校(2校)において、休日の地域クラブ活動を実施する。また、持続可能な地域クラブを運営するため、令和8年度から会費負担を開始する予定であるが、保護者の理解を得るためには、地域の指導者を積極的に採用したり、合同クラブ活動を展開するなど、従来の部活動からの変化を実感できるクラブ活動を展開していく必要がある。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

項目	担当課	取組内容・方向性等			
		令和5年度	令和6年度		令和7年度
①コーディネーターの配置	教育課スポーツ振興担当	CN決定	○コーディネーターの配置 ○コーディネーターの継続的な配置体制の構築		
②協議会等の設置・運営	教育課スポーツ振興担当	委員選定	○協議会の設置・開催(年4回程度) ○地域クラブ活動への移行に関わる課題等の検討・協議・決定・要領見直し		
③運営体制の構築	教育課スポーツ振興担当		○クラブ活動方針策定 ○部活アプリ導入説明	○クラブ活動実施要領策定 ○部活アプリ導入	
			○運営団体・実施主体決定 ※当時は市教育委員会		
④指導者の確保	教育課スポーツ振興担当		○兼職兼業希望の把握 ○兼職兼業希望の把握	○兼職兼業規程の整備 ○兼職兼業許可	
			○確保方法について検討 ○各種団体との連携 ○県人材バンク活用 ○指導者決定・委嘱	指導者説明会実施	
⑤活動場所の確保及び管理運営	教育課スポーツ振興担当		○実施要領策定 ○施設利用マニュアルの作成・周知		
			○実施要領見直し ○施設利用フロー見直し		
⑥予算・財源の確保(保護者負担等)	教育課スポーツ振興担当		○国の実証事業への参画による予算確保 ・協議会運営費・コーディネーター人件費・指導者謝金等 ①国費+市町村単費(受益者負担含む)で事業実施が条件 ②実証事業は地域クラブ活動の取組実施が必須条件 ※①②より収支構造を分析。 R6:運動部活動 R7:運動部活動・文化部活動		
			○地域移行の進捗状況の周知 ・学校(保護者、生徒、教員) ・スポーツ団体、文化団体		
⑦関係者への周知	教育課スポーツ振興担当		○市の考え方・方針等に関する周知 ○具体的な取組に関する周知 ○実施される地域クラブ活動に関する周知 ○HP掲載		
			○随時情報発信(協議会議事録、地域移行チラシ、参加可能活動クラブ紹介、活動の様子紹介等) ○HP掲載		

10月モデル校の全運動部活動の休日における地域クラブ活動への移行終了(9クラブ)

休日における全部活動(運動部・文化部)の地域クラブ活動への移行終了

休日における地域クラブ活動の拡大

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 山梨県 南アルプス市

自治体名：山梨県南アルプス市

担当課名：教育委員会事務局 生涯学習課

電話番号：055-282-7778

# 1.自治体の基本情報

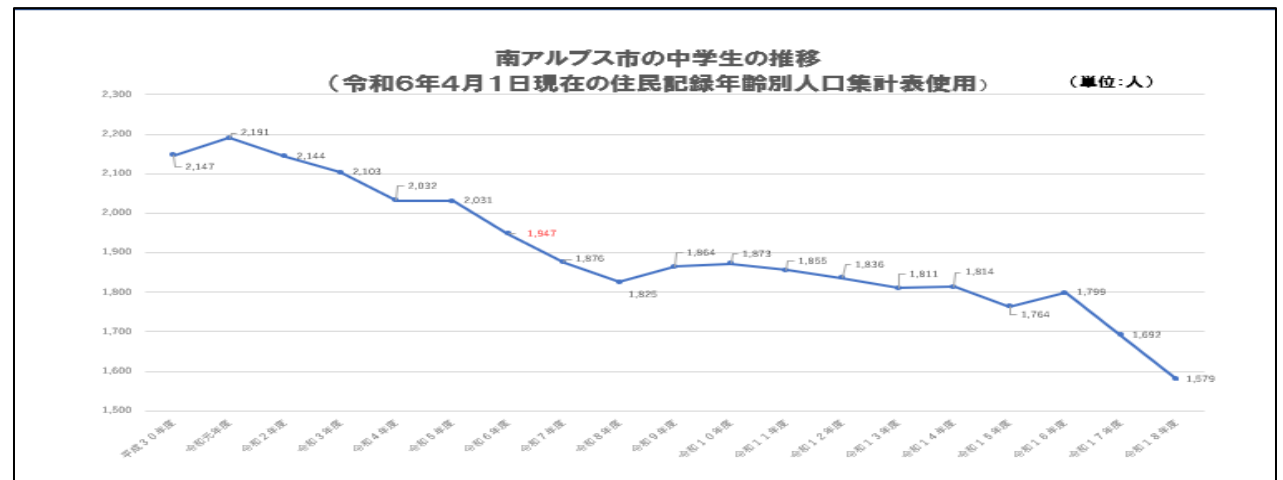
## 基本情報

面積	261.14 km <sup>2</sup>
人口	71,702 人 (R6.12月時点)
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	1,832 人
部活動数	100 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	R5に南アルプス市部活動地域移行推進協議会を設置済 R6は協議会を2回実施
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	市としての方針・方法等を策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

- ・南アルプス市には7校の公立中学校があり、令和6年4月時点で1,832人の生徒が在籍している。本市が誕生した平成15年度は2,491人であり、令和6年と比べると659人減少している。
- ・現在、市内公立中学校では季節部を含めて100の部活動があり、学校ごとに単独で活動できるものと活動できないものが混在している状況で、単独チームで大会参加できない場合は、複数校で合同チームを組んで活動している。
- ・令和6年度では地域移行に向けての取組を進めるため、国の定める要件や学校部活動の方針に則る形での事業実施を検討し、①本協議

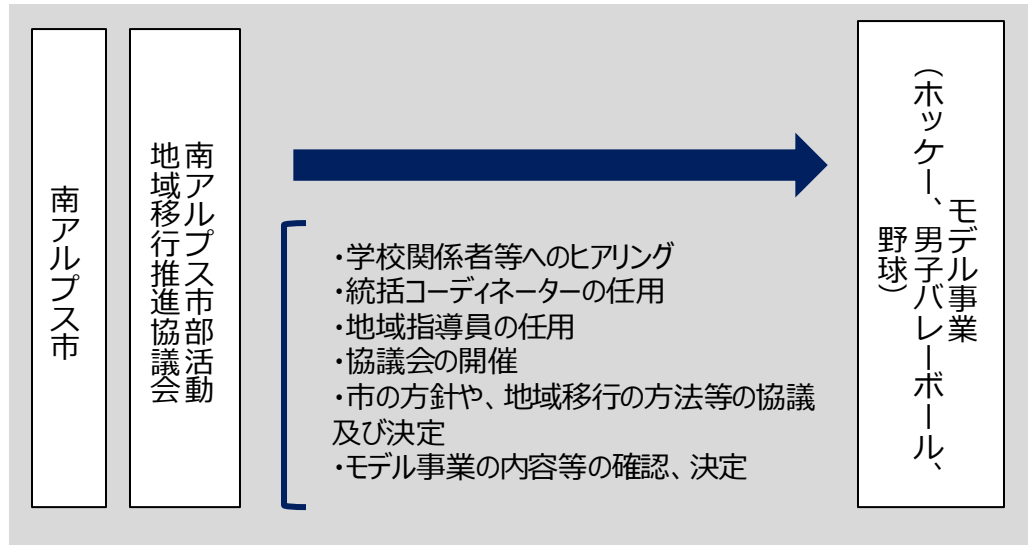
- 会に参加し指導者を派遣可能な団体のある競技の部活動、②部員数が少ない競技の部活動、③市内6中学校と広域で合同練習を実施している競技の部活動、の3競技（ホッケー、男子バレーボール、野球）の部活動で先行的にモデル事業を行い、問題点や課題の集積に努めた。
- ・地域クラブ化した際は、運営費用や指導力と質を兼ね備えた指導者をどのくらい確保出来るのかといったことが課題となることから、今後、解決に向けて検討していく必要がある。



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・南アルプス市部活動地域移行推進協議会の開催、南アルプス市部活動地域移行推進協議会委員の選定・任命、その他事務作業全般
- ・統括コーディネーターの任用、地域指導員の派遣や発掘に関する手段の構築、任用、その他事務作業全般
- ・モデル事業の内容等の確認、決定、実施
- ・モデル事業における課題の集積、分析、検証

##### ◎首長部局

- ・首長部局が担当する役割はない。全て教育委員会内で対応している。

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	・教職員・校長へのアンケート調査実施
令和6年6月	・統括コーディネーター任用 ・全中学校校長との情報交換 ・スポーツ協会・文化協会への地域指導者確保への協力依頼 ・第1回地域移行推進協議会 開催
令和6年7月～8月	・学校訪問による学校長との懇談 ・モデル事業実施部活動の選定
令和6年9月～11月	・部活動顧問との協議・調整 ・対象となる保護者説明会
令和6年10月～12月	・保護者説明会 ・モデル事業実施開始（ホッケー）
令和7年1月	・モデル事業実施開始（男子バレーボール、野球）
令和7年2月	・モデル事業実施 ・アンケート調査の実施
令和7年3月	・モデル事業実施 ・モデル事業で集積した課題、アンケート結果の分析 ・第2回地域移行推進協議会 開催

## 2.実証内容と成果

### モデル事業の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	7校	実施したモデル事業総数	12クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12クラブ（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	28人（内、兼職兼業10名）	全体の運営スタッフ数	3人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
白根巨摩中男子ホッケークラブ	南アルプス市	ホッケー	月1～4回	休日 午前または午後	中学1年 中学2年	令和6年 12月～令和7年 3月	白根高校第2グラウンド他	4人	3人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
白根巨摩中女子ホッケークラブ	南アルプス市	ホッケー	月1～4回	休日 午前または午後	中学1年 中学2年	令和6年 12月～令和7年 3月	白根高校第2グラウンド他	3人	3人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
白根御勅使中男子ホッケークラブ	南アルプス市	ホッケー	月1～4回	休日 午前または午後	中学1年 中学2年	令和6年 12月～令和7年 3月	白根高校第2グラウンド他	4人	3人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
白根御勅使中女子ホッケークラブ	南アルプス市	ホッケー	月1～4回	休日 午前または午後	中学1年 中学2年	令和6年 12月～令和7年 3月	白根高校第2グラウンド他	3人	3人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
若草中男子バレーボールクラブ	南アルプス市	バレーボール	月1～2回	休日 午前または午後	中学1年 中学2年	令和7年 1月～3月	若草中体育館・甲西中体育館他	2人	3人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動

## 2.実証内容と成果

### モデル事業の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数(他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
甲西中男子バレーボールクラブ	南アルプス市	バレーボール	月 1 ~ 2 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 3 月	若草中体育館・甲西中体育館他	2 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
八田中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	2 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
白根巨摩中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	2 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
白根御勅使中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	1 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
若草中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	1 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
櫛形中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	2 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動
甲西中野球クラブ	南アルプス市	野球	月 1 ~ 4 回	休日 午前または午後	中学 1 年 中学 2 年	令和 7 年 1 月 ~ 2 月	八田野球場他	2 人	3 人	会費なし (モデル事業のため)	中体連：部活動 その他：部活動

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 体験会、イベント等の開催や実施は行わなかった。

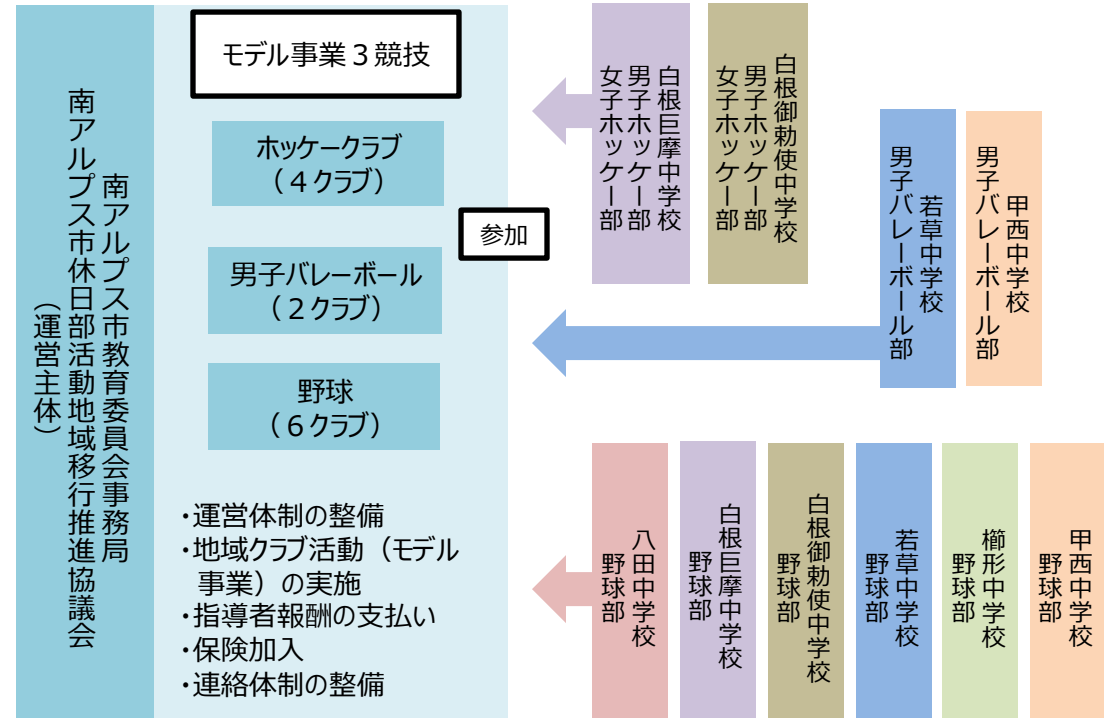
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●南アルプス市休日部活動地域移行モデル事業 活動概要

地域クラブ活動モデル事業で実施した種目	ホッケー、男子バレーボール、軟式野球
運営団体名	南アルプス市教育委員会事務局 南アルプス市休日部活動地域移行推進協議会
期間と日数	ホッケー：令和6年12月7日 ～令和7年3月30日 月1～4回程度 バレー：令和7年1月25日 ～令和7年3月30日 月1～2回程度 野球：令和7年1月18日 ～令和7年3月30日 月1～4回程度
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、部活動指導員、 外部指導者、大学生（山梨学院大）
活動場所	南アルプス市内
主な移動手段	徒歩、自転車、自動車
1人あたりの参加会費等（年額）	ホッケー：0円 男子バレー：0円 野球：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（モデル事業を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●地域指導者：28名（内、兼職兼業10名）

役割：活動の主体として、生徒への指導、練習日程の調整、練習会場の選定等を行う。

##### ●運営スタッフ：3名

役割：運営体制の整備、地域クラブ活動（モデル事業）の実施、地域指導者報酬の支払い、保険加入、連絡体制の整備

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置
- 南アルプス市部活動地域移行推進協議会を2回開催
- モデル事業の実施
- アンケート調査による問題点、課題の集積・分析

##### 取組の成果

- 統括コーディネーターを配置したことにより、学校との連絡調整・情報交換等を円滑に行うことができた。
- 学校長や部活動顧問と情報交換を行うことにより中学校の実情を把握し、運営・実施主体である市と中学校間との連絡調整等を行うことができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

###### 【統括コーディネーター】

- ・原則週1回、事業の進捗等の把握や課題の整理等について事務局担当者と打ち合わせ
- ・学校や指導者との連絡調整を実施
- ・資料の作成

##### 今後の課題と対応方針

- ・今後、休日の部活動を地域クラブ活動に移行するには「財源の確保」、「人材の確保」、「交通手段」等が課題となる。地域クラブ活動の運営や実施が円滑に行われるよう、協議会で検討していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
・スポーツ協会・文化協会への地域指導者確保への協力依頼	7名	・部活動顧問（兼職兼業） 10名	・ホッケー	・部活動顧問（兼職兼業）
・やまなしスポーツ指導者養成プロジェクトの活用	<b>人材バンクの年齢構成</b>	・スポーツクラブ職員・部活動指導員等 6名	・男子バレーボール	・部活動指導員
・県が用意した人材バンク「スポカルやまなし」を利用して地域指導者を任用	10代 3名	・外部指導者 3名	・野球	・外部指導者
・任用した地域指導者を地域クラブ活動等に派遣	20代 4名	・学生 7名	※上記3競技でモデル事業を実施	・大学生（やまなしスポーツ指導者養成プロジェクトを受講した者）
	30代 0名	・地域指導者 2名		
	40代 0名	(男性21名、女性7名)		
	50代 0名			
	60代以上 0名			

#### 取組の成果

- ・部活動顧問（兼職兼業）、部活動指導員、外部指導者、大学生を地域指導者として任用し、28名確保
- ・受け入れ可能な団体のある競技の団体の職員や、県やまなしスポーツ指導者養成プロジェクトを受講した大学生も任用することができた
- ・地域指導者のアンケート回答より、教員の負担軽減になる、専門の指導者が教えてくれてありがたい、顧問がない場合でも生徒が活動に参加できる環境は生徒にとってありがたいなどがあがった
- ・生徒のアンケート回答より、人数が多く練習内容が少なくなったとあったため、地域展開での適切な人数が課題としてあがった

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和6年度は1～3のモデル事業を実施することを協議会で決定し、実際に3競技（ホッケー、男子バレーボール、野球）でモデル事業を実施した。

令和7年度もモデル事業を継続して実施する。

地域移行にあたっては、「財源の確保」、「地域指導者の確保（人材の確保）」、「交通手段」、「地域分け」、「大会出場するための資格」、「推薦体制の整備」、「過失に備えた対応」といった様々な課題がある。今後、解決に向けて検討・協議を進めていく。

地域移行については、いきなり全ての部活動を地域クラブ化ということではなく、基本、今の部活動を維持しつつ、できる学校、部から、順次、進めていくことを目指している。そのため、部活動指導員や外部指導者を活用する現行の「学校部活動の地域連携」の充実を図り、しばらくは学校部活動と地域クラブ活動とを並走しつつ、生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる環境を整えていく。

今後、国の動向を確認しながら、令和8年には最低1つ以上の地域クラブ活動を開始できるよう、取り組んでいく。

#### ●成果の評価

今年度は「指導者を派遣可能な団体のある競技でのモデル事業」、「部員数が少ない競技でのモデル事業」、「広域で合同練習を実施している競技でのモデル事業」という3つの目的の下で競技種目を選定し、3競技（ホッケー、男子バレーボール、野球）で実施できた。実施後にアンケート調査も行い、問題点・課題の集積もできた。

調査結果を分析すると、保護者は取組については「賛成」「どちらかと言えば賛成」が合わせて67%と大半が肯定的であった。不安な点は「移動手段」が59%と一番多く、次点で「経費負担」が33%であった。また、受益者負担については「1回500円未満」が59%で一番多かった。以上より、保護者は約7割が取組に賛成しているが、地域の特性もあり各学校間が遠く、移動に自転車や保護者の送迎が必要となることから、移動について不安や負担に思う保護者が多いことがわかった。

#### ●今後に向けて

令和7年度も継続してモデル事業を実施していく。具体的には、令和6年度に実施したモデル事業のうち、ホッケー部モデル事業については令和7年4月以降も継続して実施する。また、令和7年度6月に第1回協議会を開催し、6月～9月中に年度後半で実施するモデル事業の検討及び準備を行う。その後、令和7年10月以降、準備したモデル事業を実施し、2月中旬にアンケート調査を実施して結果を検証する。

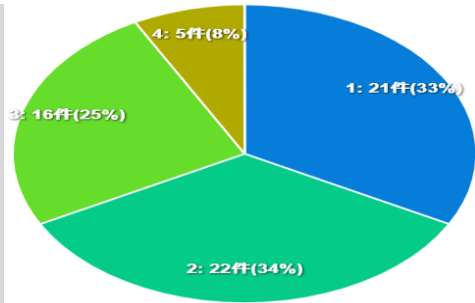
また、国の動向を確認しながら、令和8年度以降に移行する部活動を検討する。以上のようなスケジュールをもとに、令和8年4月に最低1つ以上の地域クラブ活動を開始できるよう取り組んでいく。

## アンケート結果・参加者の声

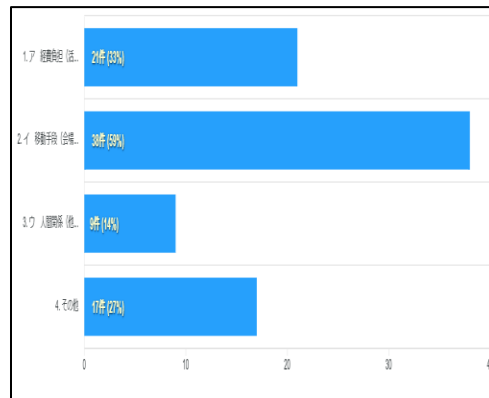
### ●アンケート結果

Q.この取組について、どのようにとらえていますか（保護者）

- 1. ア 賛成
- 2. イ どちらかといえば賛成
- 3. ウ わからない
- 4. エ 反対

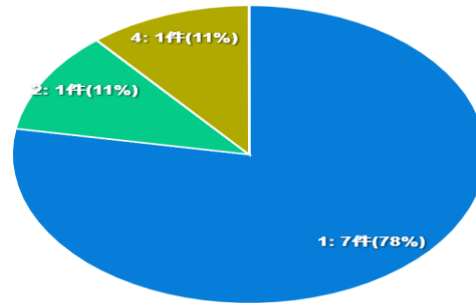


Q.この取組に関して、心配や不安に思うことはありますか

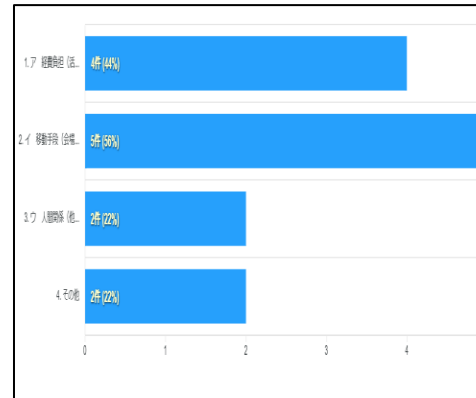


Q.この取組について、どのようにとらえていますか（地域指導者）

- 1. ア 賛成
- 2. イ どちらかといえば賛成
- 3. ウ わからない
- 4. エ 反対



Q.この取組に関して、参加する生徒への心配や不安に思うことはありますか



南アルプス市部活動地域移行モデル事業実施アンケート調査（令和7年2月～3月実施）の結果抜粋

### ●参加者の声

#### 中学生

取組については参加してみて良かったという意見が大半であった。主な理由は他校の友達が増えたから、練習内容がよかったからであり、他校の友達が増えて交流できたこと、普段よりも大人数のためその時にしかできない練習が出来たこと等を評価していることがわかった。反対意見としては対人関係が難しかったというものがああり、ペアを作ったりすることが大変と感じる生徒もいる。

#### 保護者

取組については合計67%が賛成、25%は反対。賛成意見としては自校だけでは限界があり交流もできるため、沢山の人とコミュニケーションが取れるため、といった意見があった。反対意見としては利点がない、学校の先生の関わりが強いため急に来なくなるのは困る、といった意見があった。また、移動手段に不安を感じる保護者が多く、今後、検討していく必要がある。

#### 指導者（など）

取組については89%が賛成。賛成意見とし顧問がいなくとも活動できることや人数が多くなることで練習内容が充実するといった意見があった。反対意見としては何の相談もなく突然計画を示されたため戸惑った、夏に向けたチーム作りに支障をきたすという意見があった。また、保護者と同様、移動手段に不安を感じる指導者が多く、今後、検討していく必要がある。

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



令和6年6月26日 第1回協議会]



【令和6年12月7日 地域移行モデル事業（ホッケー）】



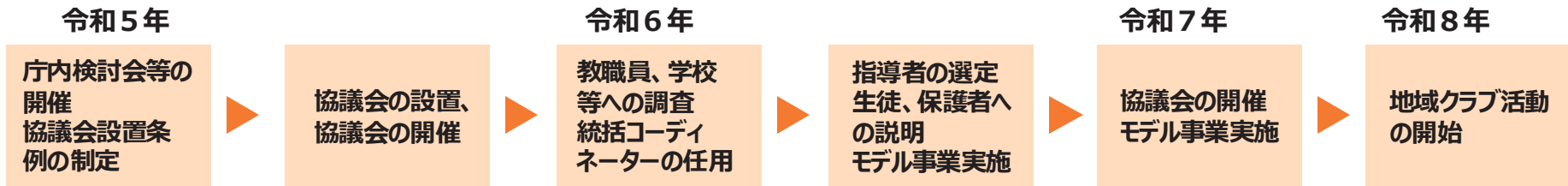
【令和6年11月30日 保護者説明会】



【令和7年1月18日 地域移行モデル事業（野球）】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

市教育委員会、市推進協議会、統括コーディネーター

#### 経過

- 令和5年度は検討委員会等を開催して検討を行い、協議会を設置。協議会を2回開催して市の方向性・方針を決定した。
- 令和6年度は教職員等へのアンケート調査や統括コーディネーターの任用を行い、協議会を開催した。年度後半では調査結果及び学校長と情報交換を行い、3競技（ホッケー、男子バレーボール、野球）においてモデル事業を実施。課題点の集積・分析を行った。

#### 実施内容

- 国の定める要件や学校部活動の方針に則る形でのモデル事業実施を検討し、問題点や課題の集積をするため、①本協議会に参加し指導者を派遣可能な団体のある競技の部活動、②部員数が少ない競技の部活動、③市内6中学校と広域で合同練習を実施している競技の部活動の、3競技（ホッケー、男子バレーボール、野球）の部活動でモデル事業を行った。

#### 実施にあたって生じた課題

- 地域クラブ化した際の運営費用や指導者の確保  
運営費用をどのように確保するのか、指導力と質を兼ね備えた指導者をどのくらい確保出来るのかが課題。

#### 今後の展開

- 令和7年度は令和6年度と同様、モデル事業を実施。令和7年4月以降もホッケー部モデル事業は継続。令和7年6～9月から年度前半のモデル事業の実施、および年度後半に実施するモデル事業検討と準備を行う。令和7年10月以降はモデル事業を開始しつつ、令和8年度以降の移行する部活動を検討。
- モデル事業の参加生徒・保護者・地域指導者にアンケート調査を実施して結果を検証し、令和8年度には1つ以上の地域クラブ活動を開始する。

# 3. 今後の方向性

市町村名（南アルプス市）		地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ			
項目	担当課	取組内容・方向性等			
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度（以降）
①コーディネーターの配置	生涯学習課	○コーディネーターの募集・人選（退職教員を中心に声かけ）	○コーディネーターの決定（5月） ○コーディネーターの配置（6月）	○コーディネーターの配置	
	学校教育課				
②協議会等の設置・運営	生涯学習課	○検討会の実施（2回）	○協議会の設置（12月） ○協議会の開催（12月・2月）	○協議会の設置・開催（6月・3月） ○地域クラブ活動への移行に関する課題等の検討・協議・決定	○協議会の設置・開催（随時） ○地域クラブ活動への移行に関する課題等の検討・協議・決定
	学校教育課				○協議会の設置・開催（随時） ○地域クラブ活動への移行に関する課題等の検討・協議・決定
③運営体制の構築	生涯学習課		○モデル事業の開催		○1つ以上の地域クラブを実施
	学校教育課				
④指導者の確保	生涯学習課		○市スポーツ協会、市文化協会への協力依頼 ○学校顧問との情報交換 ○県人材バンクの活用		○指導者研修の検討・開催
	学校教育課				
⑤活動場所の確保及び管理運営	生涯学習課		○各学校との調整		
	学校教育課				
⑥予算・財源の確保（保護者負担等）	生涯学習課	○国の実証事業への参画による予算確保（仮） ・協議会運営費 ・コーディネーター人件費 ・指導者謝金 等			
	学校教育課	①国費＋市町村単費（受益者負担含む）で事業実施が条件 ②実証事業は地域クラブ活動の取組実施が必須条件 ※①②より収支構造を分析。市町村単費確保と受益者負担詳細を検討			
⑦関係者への周知	生涯学習課	○顧問への説明	○保護者への説明	○市としての考え方・方針・ゴールイメージ等に関する周知（HP等を用いる） ○運営団体・実施主体の具体的な取組に関する周知（運営方針、実施内容、地域クラブの規定等） ○実施される地域クラブ活動に関する周知（参加者募集、指導者募集、協力のお願等）（HP等を用いる）	
	学校教育課				

一つ以上の地域クラブ活動の完全実施を目指す

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 山梨県 甲州市

自治体名：山梨県甲州市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0553-32-5098

## 基本情報

面積	総面積264 km <sup>2</sup>
人口	29,078 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	650 人
部活動数	46 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

### 甲州市における地域連携・地域移行の現状

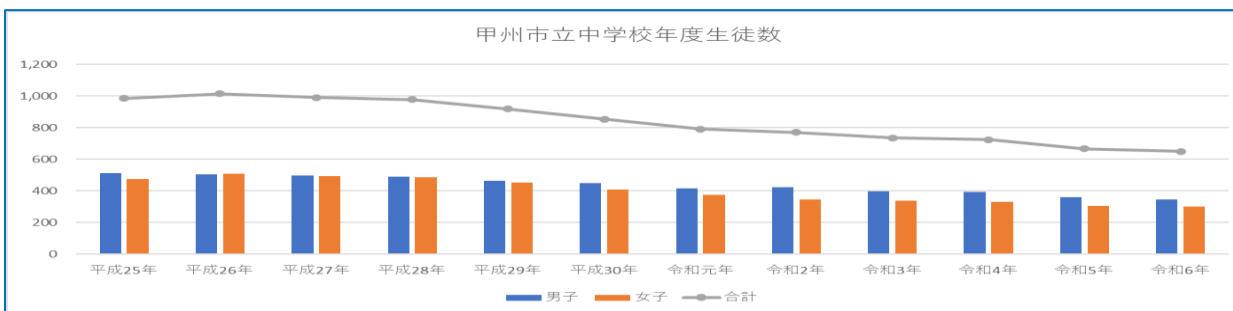
過疎化と高齢化、また全国的な傾向である人口減少及び少子化による市内中学校の統廃合が進んでいる。市町村合併した平成17年当時に市内に5校あった公立中学校は、現在4校に減り、令和7年度には3校まで減少予定である。

このように少子化の影響に対し、部活動種目の適正な維持と、段階的な地域移行を促進するため、当市ではコーディネーターの配置と推進委員会を設置し、令和5年度は市としての地域移行への方針を策定、令和6年度は試験的な地域クラブの設立と移行準備、学校や地域への調整を行い、令和7年度には段階的な地域移行を進めていく予定である。

### 甲州市における地域連携・地域移行の課題

少子化の波は、部員数の確保困難による休部や、団体種目の部員数が足りず、既に他校と合同で部活動を行っている種目もあり、運動種目の適正な維持・継続とが徐々に難しくなっていく状況である。

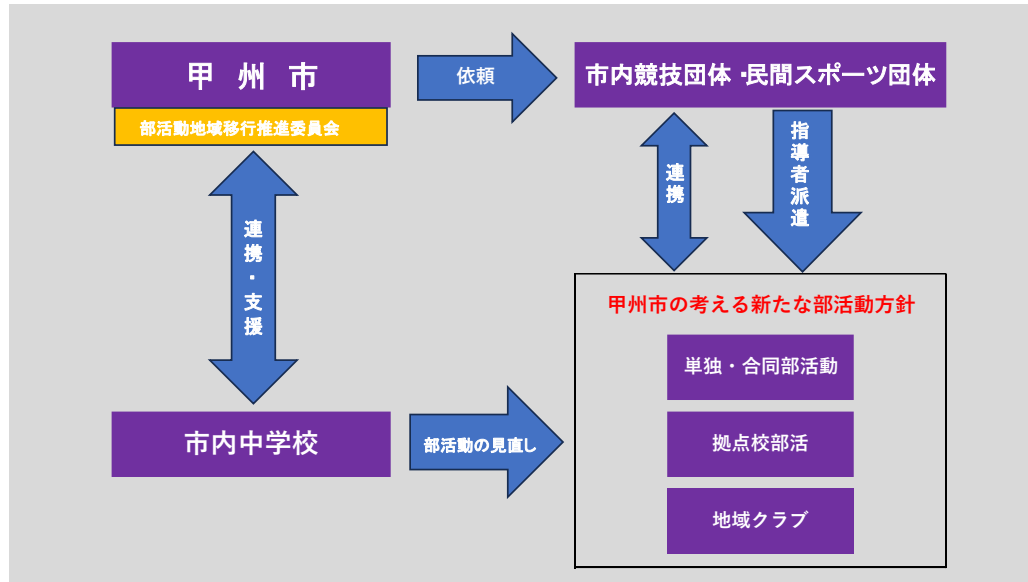
このため、市内中学校での運動部活動の整理や合同化を進めて、地域連携等により存続する種目と、地域移行への促進を図る二種類のパターンへの仕分けを行っていく方針であるが、どちらを進めるにも、人口減少が進むスポーツ人口も少ないため指導者確保が大きな課題となる。



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ●教育委員会（生涯学習課）

- ・運動部活動の地域移行を主体となり実施。コーディネーターの配置し、方針案の検討と策定及び調整
- ・甲州市運動部活動地域移行推進委員会の事務局として、市の方針を決めて、実行

##### ●教育委員会（教育総務課）

- ・部活動現場での教職員、生徒との調整
- ・生徒、保護者への周知等

### 年間の事業スケジュール

令和6年6月	第1回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会
令和6年7月	第1回実証事業生徒募集
令和6年 7月～8月	現部活顧問の競技ごとの意見集約
令和6年8月	実証事業の開始 第1回実証事業生徒募集
令和6年11月	第2回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会
令和6年12月	第2回実証事業生徒募集
令和7年1月	新入生保護者説明会
令和7年1月	新1年生向け部活動アンケート及びアンケート集計
令和7年3月	第3回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ （ラグビーフットボール部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	9人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	会費	大会参加方法
甲州市ラグビークラブ	地域クラブ	ラグビーフットボール	月2回	13:30 ~ 16:00	1年生12名 2年生5名 3年生11名	【前期】 令和6年8月24日～9月29日 【後期】 令和7年1月12日～2月9日	塩山中学校校庭 勝沼中央公園グラウンド 他	9人	年会費 1300円	中体連：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

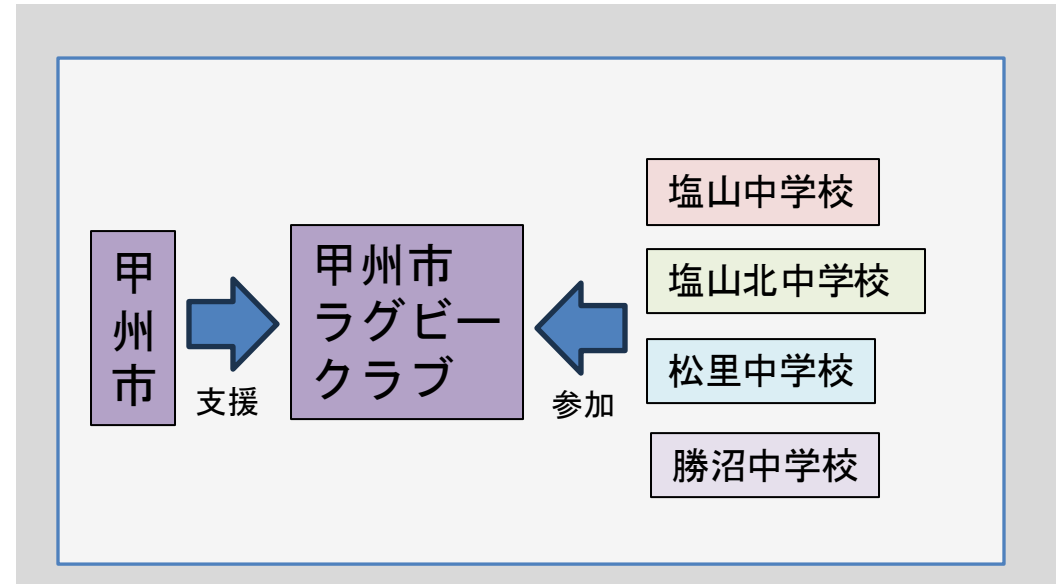
- 令和6年7月の1学期終業式前と12月の2回、地域クラブ（ラグビー部）と拠点校（女子ソフトボール部）の募集を行った。
- 令和7年1月に開催された新入生保護者説明会において、現在の状況説明を行った。

## 主な取組例

### ●甲州市ラグビークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ラグビーフットボール
運営団体名	甲州市ラグビークラブ
期間と日数	8月24日～2月9日 練習:月2回程度 練習試合・公式戦
指導者の主な属性	地元の指導者・市内中学校教諭
活動場所	塩山中学校・勝沼中学校
主な移動手段	自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	ラグビー: 1,300円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名  
役割: 連絡調整、クラブ運営に関わることを行う
- 主任指導者 2名  
役割: 練習内容の決定、指導者への連絡、練習に伴うことを行う
- 運営補助者 1名  
役割: クラブ員への連絡、事務に係ることを行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- コーディネーター1名の配置
  - ・関係団体・市町村等との連絡調整等
  - ・運営団体・実施主体の体制整備や質の確保
- 甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会の開催（年3回）

##### 取組の成果

- コーディネーターについては、昨年度から引き続き同じ方を任用したことで、事業に継続性を持って進められた。また、コーディネーターが元中学校教諭であったことから、各中学校との連携もスムーズに行えた。
- 推進委員会に保護者代表を入れたことで、保護者や生徒の意見を聞くことが出来た。
- 本年度も中学校各競技部から意見を聞き取り、各部活動の現状を把握することができた。今後の課題や方向性についてを認識することが出来て、事務局との関係構築となった。
- 現在外部に指導をお願いしている部活動等には、市団体競技部から聞き取りを実施し、外部団体と地域クラブ化に向けての協議ができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- 市内中学校との連絡調整
- 他自治体の情報共有
- 実証事業の甲州ラグビークラブとの連絡調整、活動補助等
- 会議への参加
- 各競技ごとの顧問へのヒアリング

##### 今後の課題と対応方針

- 関係者への周知と協力体制の構築
- 指導者の確保
- 体育施設利用のルール設定
- 部活動地域展開の広報活動

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項（イ）

- 昨年度まで、協力してくれていた外部指導者への説明と協力
- 指導者に対して、年1回の研修会を開催（1月）
- 日本スポーツ協会ワークブック、動画「ケーススタディから考えるグッドコーチング～グッドプレーヤーのさらなる育成を目指して～」を活用し研修を実施した。合わせて「部活アプリクラブマネージャー」の利用方法等を、株式会社アスフィールより説明を受けた。
- スポカルやまなしを活用しての指導者確保（マッチングなし）

##### 取組の成果（イ）

- 指導者9名を確保
- 研修会時には9名中6名が参加。当日、不参加だった指導者には資料の送付と研修動画の視聴を依頼し、全員が視聴した。

##### 【参加指導者の声】

- ◆これまでのコーチングから、今の生徒や保護者に対応したグッドコーチへの変革が必要だと感じた。
- ◆注意一つにしても、一方的に伝えるのではなく、本人と対話する中で、その子に合った言葉で伝えることが重要。

##### 今後の課題と対応方針

- 今年度については、9名の指導者が交代で指導を行えた。
- 中心的指導者の声掛けにより、協力いただいた指導者については、継続的な関わりを持つための新たな仕組みが必要である。
- 指導者の年齢が20代～50代と幅広い世代であり、多くの意見や指導方法などの意見交換が活発に行えた。
- 指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。本年度は1回の開催だったが、来年度は複数回開催予定



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

- 指導者への報酬
- 指導者のスポーツ保険加入
- 統括コーディネーター人件費

##### 地域クラブに係る経費

##### ■イニシャルコストの分析

- 本年度、地域クラブ方式によるラグビー部について実証事業を行った。イニシャルコストとして、考えられる備品購入等については、これまで各中学校で使用していた備品を流用した。
- 参加生徒のスポーツ保険については、個人負担とした。

##### ■ランニングコストの分析

- 指導者謝金  
 $1,600円 \times 2.5H \times 4人 \times 16回 = 256,000$   
 $1,600円 \times 2.5H \times 3人 \times 2回 = 24,000$  合計 280,000
- スポーツ保険代 中学生  $800円 \times 28人 = 22,400$   
指導者  $1850円 \times 9人 = 16,650$  合計39,050
- 大会参加費、登録料●消耗品●連絡アプリ使用料  
 $280,000 + 39,050 = 319,050$  参加者28人で割ると一人11,395円の負担となる。今後地域クラブとして活動を始めると諸経費等の負担は大きくなることが予想される。

##### 今後の課題と対応方針

- 本年度については、地域クラブとして1クラブの実証事業を行った。参加費用の受益者負担については、参加者に極力負担が少ないように活動を行った。
- 登録料、保険料など個人が活動に必要な費用については、受益者負担として協力を得られたが、指導者謝金やこれまでの部活動では、負担しなかった経費については、市が負担した。

- 今後の活動について、参加者及び保護者から理解を得るための説明会の開催や、チラシの配布など、周知への取り組みが必須である。
- イニシャルコストについては、導入時に必要な備品やユニフォームは、現状活用できるものを有効に活用していくことで、出費を抑えていく。
- ランニングコスト、特に人件費に係る部分については受益者負担を軸に仕組みづくりを考えなければ、持続的な活動は困難である。併せて、参加者及び保護者への理解を深めていく必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- 本年度は、実証事業の実施初年度であり、試験的に季節部のラグビー部を地域クラブ化して、多くの方々より協力や助言をいただき、クラブ運営をすることが出来た。課題点が見えてきた。
- 実施事業の拠点校方式の女子ソフトボール部については、応募が無く残念であったが、部活動の活動方式により、参加出来ない大会があるなどの課題が見えてきた。
- 生徒や保護者、部活動顧問への理解を深めるための活動として、地域クラブ募集チラシの配布とともにQ&Aをつけた。
- 新1年生保護者説明会で、部活動の状況説明が実施できた。

#### ●成果の評価

- ・課題が見えたことで、次年度の実証事業に向けて、早期の段階から新たな地域クラブの発足に向けて取り組んでいく。
- ・少子化による部活動が成り立たない中学校もあることから、今後は平日の部活動も含め、地域に展開していかないとならない。

#### ●今後に向けて

- ・部活動の地域移行は、当初「教員の働き方改革」が最優先されてきたが、現在は「生徒が将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動を親しむ機会の確保・充実」が理念となっていることから、令和7年度からは甲州市部活動推進協議会の中の「分科会」の積極的な活動のもと、市と教員、地域が一体に取り組むべき体制整備をし、常に「生徒」が主体であることを念頭に置いて、甲州市としてとれる体制を整備するためにも、早期に市としての方向性を決めて、取り組んでいくことが望ましい。
- ・近隣自治体との広域的な合同部活動が今後はもっと増加することから、自治体連携も必要となってくる。また峡東教育事務所に配置されたコーディネーターを含めた東山梨地区の協議会等の設置が欲しい。

## 2.実証内容と成果③

### アンケート結果・広報資料

●令和6年度、実証事業の実施に伴い地域クラブ（ラグビー部）拠点校方式（女子ソフトボール部）への参加チラシを作成し、全生徒に配布した。本年度は7月と12月の2度募集した。

●来年度の事業方針を定めるため、現小学6年生へアンケートを実施し、子どもたちの希望や状況の把握に努めた。

#### 【生徒への参加募集チラシ】

**甲州市立中学校運動部活動「拠点校」「地域クラブ」参加者募集**  
令和6年度 第2次募集(現1,2年生)

甲州市では、部活動の地域移行を進めています。

令和6年度は「女子ソフトボール部」「ラグビー部」の2種目を実証的に行います。

- 部活動は、休日の月2回程度です。
- 「女子ソフトボール部」は、塩山中を「拠点校」として練習をします。
- 「ラグビー部」は、塩山中・勝沼中を会場に「地域クラブ」として練習をします。

※ 現所属部活動とは別に、誰でも参加できます。  
※ 参加を希望する中学生の皆さんは、内容を確認して、下の申込用QRコードから申し込んでください。

拠点校	地域クラブ
<b>★女子ソフトボール部★</b>	<b>☆ラグビー部☆</b>
練習場所 塩山中学校グラウンド	練習場所 塩山中学校、勝沼中学校グラウンド
部費 月500円程度 (現在種別と同額)	部費 大会参加費等の負担あり (前年度と同額程度)
練習内容 様々なレベルにあった基礎練習から	練習内容 様々なレベルにあった基礎練習から
募集人数 制限なし(現1,2年生)	募集人数 制限なし(現1,2年生)
在籍部員数 現1年生7名、現2年生4名	在籍部員数 現1年生6名、現2年生3名
持ち物 学校体育着、スパイク、グローブ	持ち物 学校体育着、スパイク、 マウスピース(初回練習時に指示あり)
指導者 塩山中学校加山先生 他コーチ3名	指導者 塩山中学校内田先生 他コーチ9名
指導者から一言 ソフトボールはとても楽しい競技です。打つ、投げる、捕るなど、まったく経験がない生徒でも楽しく取り組めます。その人のレベルにあった練習をしていますので心配はありません。ぜひ、私たちと一緒にソフトボールを始めませんか！	指導者から一言 活動内容はQRコードを読み取ってHPを開き確認してみてください。 マルチスポーツに取り組んで、身体を鍛え、仲間を増やしましょう！ONE TEAM！！ 活動内容はこちらから→ 

**第2次募集締切日 令和6年12月20日**

甲州市HP 地域移行ページ



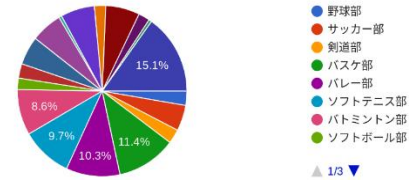
申込用QRコード



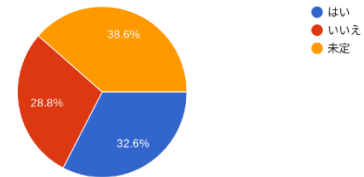
【問い合わせ】  
〒404-0053 甲州市塩山小堀敷185-4  
甲州市教育委員会生涯学習課 スポーツ振興担当  
☎ 0553-32-5098 / FAX 0553-32-2837

#### 【アンケート結果 一部抜粋】

質問5 ここからは塩山中、松里中、勝沼中のどれ...。\*入部先を決定するアンケートではありません。  
185件の回答



質問6 中学校入学後、スポーツクラブや教室等（スポーツ・文化）に通う予定がありますか？  
184件の回答



## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【甲州市中学校部活動地域移行推進委員会】



【市内中学校新入生保護者説明会】

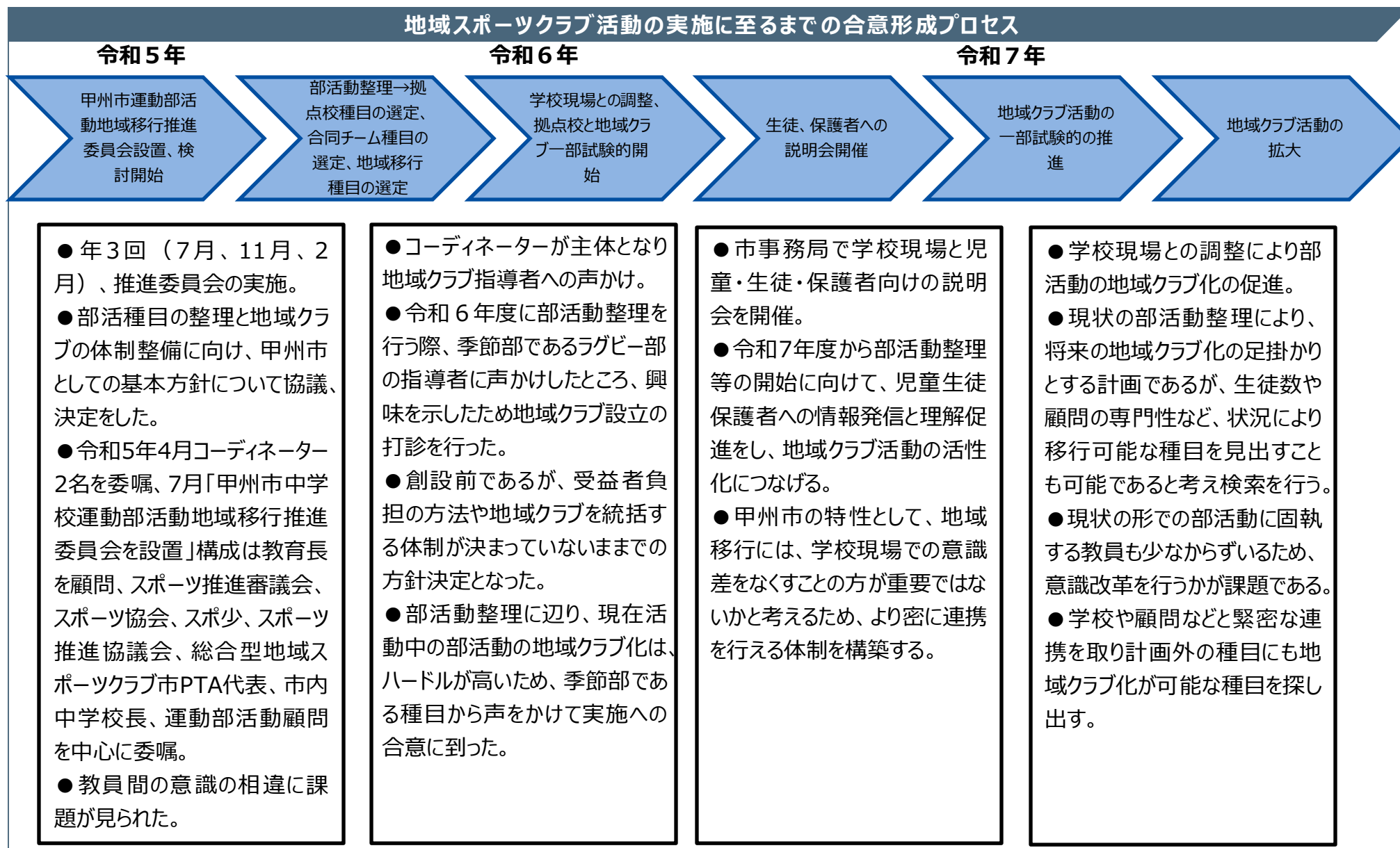


【甲州市ラグビークラブ 選手権大会への参加】



【甲州市ラグビークラブ新人戦への参加】

## 2.実証内容と成果



# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

